

対象期間と対象範囲

対象期間

2014年4月1日～2015年3月31日

ただし、記載内容によっては集計期間が一部前後するものがあります。

(発行:2015年10月/次回発行予定:2016年9月)

対象範囲

三菱樹脂(株)または下記グループ会社を報告対象範囲としています。ただし、記事の一部については対象範囲が異なる場合があります。その場合、対象範囲を記載するよう努めています。

国内生産関係会社対象範囲 18社

(株)アストロ
 (株)アルポリック
 (株)エムケーバイ四日市
 クオドラント ポリペンコ ジャパン(株)
 ジェイフィルム(株)
 ダイアモールディング(株)
 (株)ダイヤサービス
 ダイヤテックス(株)
 ダイヤプラスフィルム(株)
 (株)北菱モールド
 三菱樹脂アグリドリーム(株)
 油化電子(株)
 (株)菱栄
 菱江産業(株)
 (株)菱湖テクニカ
 菱成樹脂(株)
 菱琵テクノ(株)
 菱和ロジテム(株)

海外生産関係会社対象範囲 10社

三菱樹脂農膜科技(無錫)有限公司
 三菱樹脂光学薄膜(無錫)有限公司
 三菱樹脂聚酯膜(蘇州)有限公司
 PT. MC PET FILM INDONESIA (MFI)
 上海宝菱塑料制品有限公司
 太洋製膜股酯有限公司
 Hishi Plastics U.S.A., Inc. (HPU)
 Mitsubishi Plastics Composites America, Inc. (MPCA)
 Mitsubishi Polyester Film, Inc. (MFA)
 Mitsubishi Polyester Film GmbH (MFE)

※2015年3月末現在の社名にて記載
 ※()内は略称

トップメッセージ

より高い価値を創造し、
豊かな社会づくり、そして
KAITEKIの実現に貢献します



はじめに

三菱樹脂グループは、2008年の発足時に「CSR経営の完遂」という経営方針を定めて以来、社会貢献・コンプライアンス推進・リスク管理・安全環境・人権啓発という5つの柱を軸に、各々の委員会が中心となり、社会の関心を反映した活動や当社が事業を行う上でのリスク低減に向けた活動など、全従業員による継続的な取り組みを推進しています。

KAITEKIの実現に向けて

今、地球は、温暖化・砂漠化の進行、天然資源の枯渇、生物多様性の危機、人口増加に伴う食糧や水の不足など、多くの問題を抱えています。これらを解決していくことは容易ではありませんが、企業がこれらの問題を直視し、真に持続可能な社会の構築に向けて取り組んでいくことは、私たちの責務であり、企業が存続していくための大前提であると考えています。

そのような考えの下、三菱樹脂グループは、三菱ケミカルホールディングス(MCHC)グループの一員として、Sustainability(環境・資源)、Health(健康)、Comfort(快適)の3つを企業活動の判断基準としてKAITEKI※を実現するという大きな方針・目標を掲げ、活動を展開しています。具体的には、従来の経営の価値判断に、MOS(Management of Sustainability)という独自の価値基準の軸を加え、目標設定とアクションプランの実行を推進しています。また、三菱樹脂グループでは、MOS価値の向上に向けた取り組みの一環として、KAITEKIの実現に貢献できる製品を「コンフォート・Plus商品」として独自に選定し、その事業拡大に向けて取り組んでいます。

※ KAITEKIとは、「時を越え、世代を超え、人と社会、そして地球の心地よさが続く状態」を表したMCHCグループ独自のコンセプトです。

Management of Sustainability (MOS)

サステナビリティの向上をめざす経営

人と社会と地球の現在、そして未来のために、さまざまな環境・社会課題の解決や、その先にあるより良い未来の創造を志向する経営基軸です。MCHCは、企業活動の判断基準を活かしたSustainability、Health、Comfortに関する定量的指標を策定し、PDCAサイクルを回す仕組みを独自に構築しています。



Management of Economics (MOE)

資本の効率化を重視する経営

人材、資産、資金などのさまざまな資本を効率的に活用し、利益をはじめとする経済的価値向上を追求する経営基軸です。

Management of Technology (MOT)

イノベーション創出を追求する経営

新規技術の開発や技術の差異化などを通じて、経済的価値や社会的価値の向上に資するイノベーションの創出をめざす経営基軸です。自社開発だけにこだわらず、広く世界にアライアンスを求めるオープンシェアード型ビジネスモデル構築による時宜を得たアウトプットを重視したマネジメントを推進しています。

MCHCグループのKAITEKI経営

CSR活動の成果

2014年度は、製造現場での省エネ活動や燃焼効率の向上などの削減努力の結果、2011年度から累計で約4万4千トンのCO₂排出量を削減しました。また、従業員の善意による募金を会社がサポートしてNGO、NPO団体へ寄付を行うマッチングギフト制度(愛称「プラスくん募金」)を継続運用し、2014年度までの募金額は2010年度の開始以来累計で約600万円となりました。さらにはMCHCグループとして、東日本大震災の被災地の子どもたちを東京に招待するイベントを継続して開催するなど、CSRとしての様々な取り組みを着実に進めることができました。リスク管理や安全環境の面においては、当社グループのグローバル化の進展に伴い、活動範囲を世界に拡げていきました。また、ダイバーシティの推進や従業員のワークライフバランスに対する取り組みも、2014年度より一層本格化しています。これら昨年度の活動実績は、「CSRレポート2015」として、当ホームページ上で開示しておりますので、是非ご覧頂ければと存じます。

より豊かな社会づくりへの貢献

私たち三菱樹脂グループの企業理念は「恒により高い価値を創造し、より豊かな社会づくりに貢献する」ことです。中期経営計画「APTSIS15・Plus」(2011-2015年度)では、自動車排ガス処理装置への使用拡大が見込まれるアルミナ繊維や、需要が拡大しているタッチパネル用をはじめとした光学用フィルム分野、食品包装向け・医療向け高機能フィルム分野などへの重点投資により、事業の拡大をめざしています。これらは地球環境の維持や快適な社会の構築に欠かせない製品群です。当社の優れた技術開発力から生み出されるこれらの商品を通じて、社会に広く貢献すること、それはまさに私たちの企業理念の実現であり、企業の社会的責任の遂行に他なりません。私たちは、より豊かな社会づくり、そしてKAITEKIの実現に向けて、これからも取り組んでまいります。

2015年10月
取締役社長 姥貝卓美

※「KAITEKI」の詳細はMCHCのKAITEKI経営 [□](#) を、「MOS」の詳細はMCHCのサステナビリティ [□](#) をご参照下さい。

メディカル分野で活躍する三菱樹脂グループ製品

三菱樹脂グループでは、三菱ケミカルホールディングス(MCHC)グループの提唱するKAITEKI実現をめざし、事業活動を通じてより快適な社会の実現に貢献しています。本特集では、事業を通じて医療に携わる皆さんや患者さんの課題解決に貢献する、当社グループの製品を紹介します。

※「KAITEKI」、「MOS」の詳細は、[MCHCのKAITEKI経営](#) をご参照下さい。



人にやさしい錠剤・カプセル包装用多層シート

社会課題

近年、口腔内崩壊錠をはじめとした高機能製剤の増加や二次包装の省略が行われるようになるなど、錠剤・カプセル包装(PTP※)へのバリア性が求められています。しかし、バリア性を上げるために包装材が厚くなると、錠剤が押し出しにくくなり、高齢者が服用の度に硬いシートで指を痛めるケースもありました。

※PTP: Press-Through-Pack





製品による
貢献

これなら
楽チン!

after

PTPIには、主に単層PVC(ポリ塩化ビニル)が使用されていますが、三菱樹脂は、独自の積層技術を用いた3層構成により、国内で初めて単層PVCと同じ取り出しやすさとハイバリア性を両立した錠剤・カプセル包装用防湿シートの商品化に成功しました。層構成や樹脂の配合を工夫することで、押し出しやすさを維持したまま、PVC/PVDC(ポリ塩化ビニリデン)複合品としては国内最高レベルのバリア性※を実現。高齢者や薬剤師の方々の負担を軽減する製品の開発に努めています。

※2015年6月末時点

▶「ビニホイル®」「スーパーホイル®」の製品ページ



錠剤・カプセル包装用防湿シート「ビニホイル®」「スーパーホイル®」

POINT バリア性の高い錠剤・カプセル包装も押し出しやすく!

医療器具をスムーズに開封できる高性能フィルム



社会課題

医療器具の包装材は、品質保持のため密閉性が高く、開封時に力が必要でした。1日に何度も医療器具を使用する医療関係者にとって、こうした硬い包装材は手に負担がかかりやすく、かつ作業効率が悪いことが課題でした。



なかなか
はがれない!



製品による
貢献

開けやす
くなった!

after

合成樹脂原料による梱包資材の加工・販売を行うジェイフィルム社では、独自の設計技術により、手で簡単に開封することができるイージーピールフィルム「VMX®」「IMX®フィルム」を開発しました。その滑らかな開封感により、シリンジやカテーテル等の医療器具の包装材として使用されています。あらゆる世代にとって使いやすい包材を提供することで、医療現場の負担軽減や作業効率の向上に貢献しています。

▶ ジェイフィルム株式会社



イージーピールフィルム「VMX®」「IMX®フィルム」

POINT 密閉された医療器具の包装材もラクラク開封!

歯科医の作業効率を向上させる特殊容器

社会課題

日本では歯科衛生士が歯科医を補助するのが一般的ですが、海外、特に欧州では、多くの場合歯科衛生士が存在せず、歯科医自らが様々な業務をこなしています。そのため、歯の治療(歯牙修復)に用いられる歯科用セメント材を生成するための準備作業も歯科医が行う必要がありました。



製品による貢献

after

これ一つで管理できるのか



電子デバイス関連製品、医療用成形部品などの開発・製造・販売を行う油化電子社では、独自の成形加工技術を活かし、歯牙修復材用特殊容器(通称:セメントカプセル)を歯科材料メーカーと共同開発※しました。容器の突起部を押し込むことで、容器内に隔離して収納している粉と液体の隔壁に亀裂が生じ、その後数十秒間専用ミキサーを用いることでセメント材を生成することが可能です。さらに、先端のノズルからセメント材を押し出せば直接患部に投与できます。この容器を用いれば、材料の秤量、投与の為の容器への移し替えなどの手間が省けるだけでなく、わずかな作業で一定の物性を持ったセメント材を準備することが可能になりました。

※ 共願特許取得済み

▶ [油化電子株式会社](#)



歯牙修復材用特殊容器

POINT

わずかな作業で歯科用セメントの生成が可能に！

医療現場の事故防止・安全を支えるPETボトル

社会課題

医療現場において、ガラス製のボトルは保存容器として高い評価を受けていますが、瓶自体が重たく、衝撃による破損や破損したビンの混入の恐れがありました。また、投薬調整時の過誤のリスク等もあり、取り扱いには注意が必要でした。





after

三菱樹脂では、独自のDLC(Diamond Like Carbon)蒸着技術により、衝撃に強いプラスチックにバリア性とボトル自体への内容物の吸着抑制機能を付加した、医療用のDLCハイバリアボトルを開発※しています。ガラス製のボトルと比較して軽量化できるだけでなく、DLCコーティングにより、一般的なPETボトルと比較し、酸素で約10倍、炭酸ガスで約7倍、水蒸気で約5倍、バリア性に優れています。内容物の品質保持とボトルの軽量化による破損防止で医療関係者にとっての安全な作業環境の提供と医療事故防止に貢献しています。

※医療用途としては開発中の製品です

▶ [ハイバリアボトルの製品ページ](#)



DLCハイバリアボトル



バリア性が高いPETボトルで医療事故を防ぐ！

医療現場の作業効率と安全性に貢献する高機能フィルム



医療現場では、品質保持のため、高いバリア性を求められる医薬品・医療器具の外袋には、主にアルミ箔が用いられますが、視認性が悪く、また金属探知機を使用出来ないため、異物混入などの課題があります。また、高いバリア性を求められる輸液は、従来ガラス製のビンや容器で保存しなければならず、破損の恐れや現場で調製する際の異物混入などの課題がありました。



after

三菱樹脂のハイガスバリアフィルム「テックバリア®」は、PETやナイロンといったベースフィルムにシリカを蒸着させることで蒸着膜を形成し、耐久性に優れ、アルミ箔に匹敵するバリア性を持ちます。透明蒸着フィルムのため金属探知機も使用出来、医薬品・医療器具の包装材料として使用されています。

一方、共押出多層フィルム「ダイアミロン®」は、複数の樹脂原料を積層した構造になっており、高いバリア性を持ち、薬液成分の吸着を抑制するだけでなく、様々な機能をカスタマイズすることが可能です。輸液バッグにも使用されており、複数の薬液を最初から一つの袋に入れて保存することも出来るため、調製作業の簡略化や細菌汚染・異物混入防止が可能です。これらの製品を通じ、医療現場の作業効率の改善と安全性の向上に貢献しています。

▶ [テックバリア®専門サイト](#)

▶ [ダイアミロン®専門サイト](#)



ハイガスバリアフィルム「テックバリア®」



共押出多層フィルム「ダイアミロン®」



医薬品・医療器具を見やすく、扱いやすく！

人工関節を使用する患者さんの負担を軽減する医療用特殊材料

社会課題

つらい関節の痛みには、人工関節という治療方法がありますが、軽量で衝撃に強いだけでなく、徹底した品質管理の下で製造される必要があります。また、その交換は患者さんにとって大きな負担となるため、耐用年数の向上が求められていました。



製品による貢献

長いこと使っているけど絶好調!

after



エンジニアリングプラスチック製品、コンポジット製品の製造・販売を行うQuadrantグループが開発した医療用特殊材料「MediTECH™」は、軽くて耐久性に優れ、自己潤滑性がある超高分子量ポリエチレンを使用しており、世界各国で人工関節をはじめ手術用トレイや医療現場の設備などにも使われています。人工関節用途は劣化の状態により交換が必要になる場合もありますが、「MediTECH™」は酸化や劣化の抑制により、長期にわたり寸法安定性を維持することが可能です。耐用年数を伸ばすことで患者さんの負担を軽減し、快適な暮らしの実現を支えています。



POINT

耐用年数を延ばして患者さんの負担を軽減！

開発の現場から

医療に携わるすべての人にやさしい社会の実現に向けて

三菱樹脂グループでは、各社・各事業の持つ、特徴ある技術プラットフォームを応用することにより、新たな製品開発に取り組んでいます。メディカル分野においても、材料設計技術や加工技術を用いた積層構造で医薬品包装材に高度な複合機能を持たせる、バリア性を与えて内容物(薬品)を守るなど、皆さんの利便性を向上させる製品の開発を進めています。

製品を通じて、家庭から病院まで、あらゆる場面で皆さんが暮らしやすいと思える社会の実現に貢献すべく、グループで連携を図りながら日々研究開発と事業展開に注力しています。今後もメディカル分野における当社の活躍に、ご期待ください。



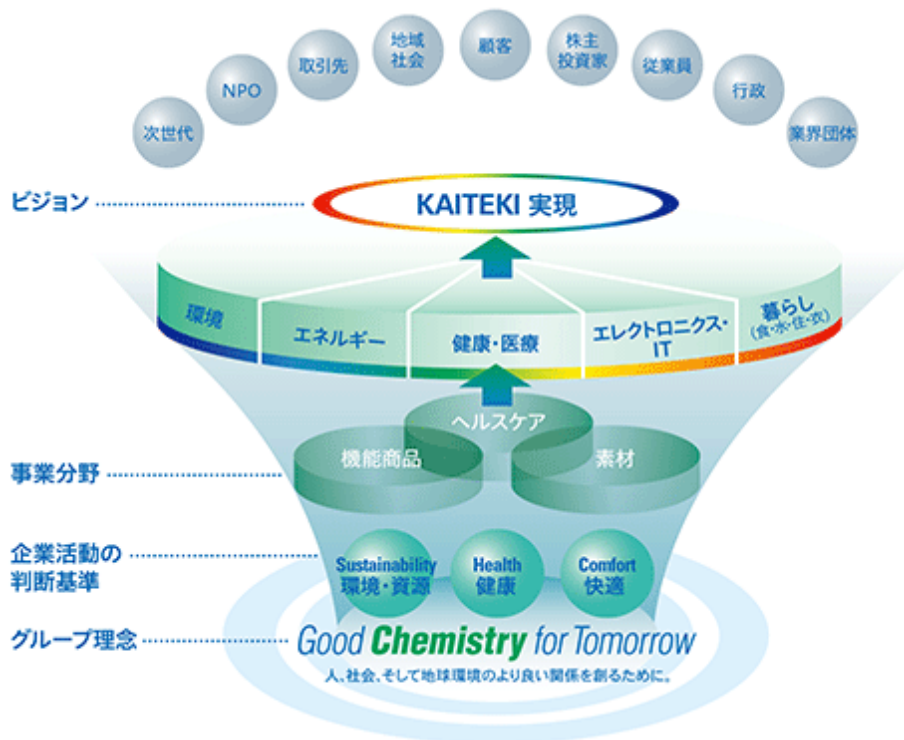
商品開発基盤部門所管
兼 総合研究所長
佐藤 嘉記

KAITEKIの実現

三菱樹脂グループは、三菱ケミカルホールディングス(MCHC)グループの一員として、KAITEKIの実現を目指しています。

MCHCが目指すもの

環境・社会課題の解決に貢献し、持続可能な社会を皆様と一緒に築くこと、すなわち「KAITEKI実現」をビジョンに掲げています。



▶ MCHCのKAITEKI経営

グループ理念 (Good Chemistry for Tomorrow) と企業活動の判断基準

“Chemistry”には、“化学”のほかに“物と物、人と人、人と物との相性・関係・つながり”という意味があります。MCHCグループは、この意味を「人、社会、そして地球環境のより良い関係を創るために。」という企業姿勢に込め、グループ理念 Good Chemistry for Tomorrow として表現しています。この理念のもと、未来を育む Good Chemistry とは、Sustainability (環境・資源)、Health (健康)、Comfort (快適) を具現化する活動であると捉え、この3つをMCHCグループの企業活動の判断基準としています。

MCHCグループの事業分野

MCHCグループは、三菱化学株式会社、田辺三菱製薬株式会社、三菱樹脂株式会社、三菱レイヨン株式会社、株式会社生命科学インスティテュート、大陽日酸株式会社などの事業会社で構成する企業グループです。

MCHCグループは、「機能商品」「ヘルスケア」「素材」という3つの事業分野において、「エレクトロニクス・アプリケーションズ」「デザインド・マテリアルズ」「ヘルスケア」「ケミカルズ」「ポリマーズ」の5つをセグメントとして事業活動を展開しています。

企業活動を通じたKAITEKIの実現

KAITEKIとは、MCHCグループ独自のコンセプトであり、「時を越え、世代を超え、人と社会、そして地球の心地よさが続く状態」を表しています。

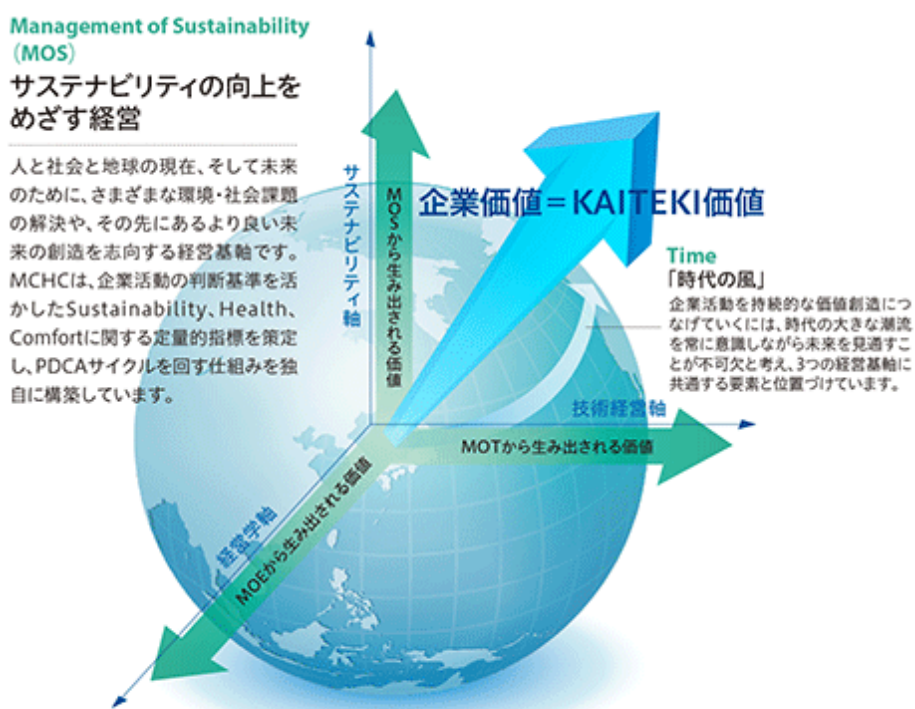
企業活動を通じて新しい価値を提案することにより、「環境」「エネルギー」「健康・医療」「エレクトロニクス・IT」「暮らし(食・水・住・衣)」などの分野が抱える様々な環境・社会課題の解決に貢献し、KAITEKIを実現すること。それがMCHCグループのめざす姿です。

ステークホルダーの皆様との協奏

MCHCグループは、お客様や株主・投資家、地域社会、従業員、お取引先など、企業活動を支えるすべての人、社会、そして、その基盤となる地球をステークホルダーと考えています。そして、ステークホルダーの皆様との対話や適切な情報開示を通じて短・中・長期の課題・目標を共有し、企業活動を推進しています。こうした活動の一つとして、MCHCは2006年5月に「国連グローバル・コンパクト」への支持を表明しました。

企業価値向上の考え方

3つの重要な視点からなる経営を通じて生み出す価値の総和を企業価値とし、この価値を高める「KAITEKI経営」を推進しています。



MCHCのKAITEKI経営

MCHCグループの考える企業価値

MCHCグループでは、資本の効率化を重視しながら経済的価値向上を追求する経営(Management of Economics)、経済価値と社会的価値向上に資するイノベーション創出を追求する経営(Management of Technology)に加えて、サステナビリティの向上を通じて社会的価値向上を追求する経営(Management of Sustainability)という3つの基軸を、時間や時宜を含めた時代の大きな潮流を意識しながら一体的に実践し、広く企業価値を高めていく独自の経営手法をKAITEKI経営と名づけて実践しています。MCHCグループは、経済的価値に焦点を当てた従来の企業価値をより広く捉え、KAITEKI経営の3つの基軸に沿って生み出される価値の総和をMCHCグループの企業価値と定め、KAITEKI価値と呼んでいます。MCHCのすべての企業活動がこのKAITEKI価値の向上につながると同時に、人、社会・地球の持続可能な状態の創造、つまりKAITEKI実現に通じる、という強い思いのもと、企業活動を推進しています。

- ▶ [三菱樹脂のKAITEKIへの取り組み「コンフォート・Plus商品」](#)

CSRマネジメント

「CSR経営の完遂」を経営方針として定め、CSRの5本柱に基づく活動を強化しています

CSRの五本柱

三菱樹脂グループは、「恒により高い価値を創造し、より豊かな社会づくりに貢献する」という企業理念のもと、CSR経営の完遂を経営方針として定め、その実現に向けて「社会貢献」「コンプライアンス推進」「リスク管理」「安全環境」「人権啓発」の5本柱に基づく活動を展開しています。私たち三菱樹脂グループは、CSR経営を通じてお客様をはじめ社会から広く信頼される企業グループとなることをめざし、更なる活動に取り組んでまいります。

以下の取り組みに関する詳細は下記リンクからご覧下さい。

- ▶ [コンプライアンスの推進](#)
- ▶ [リスク管理](#)



CSR推進体制

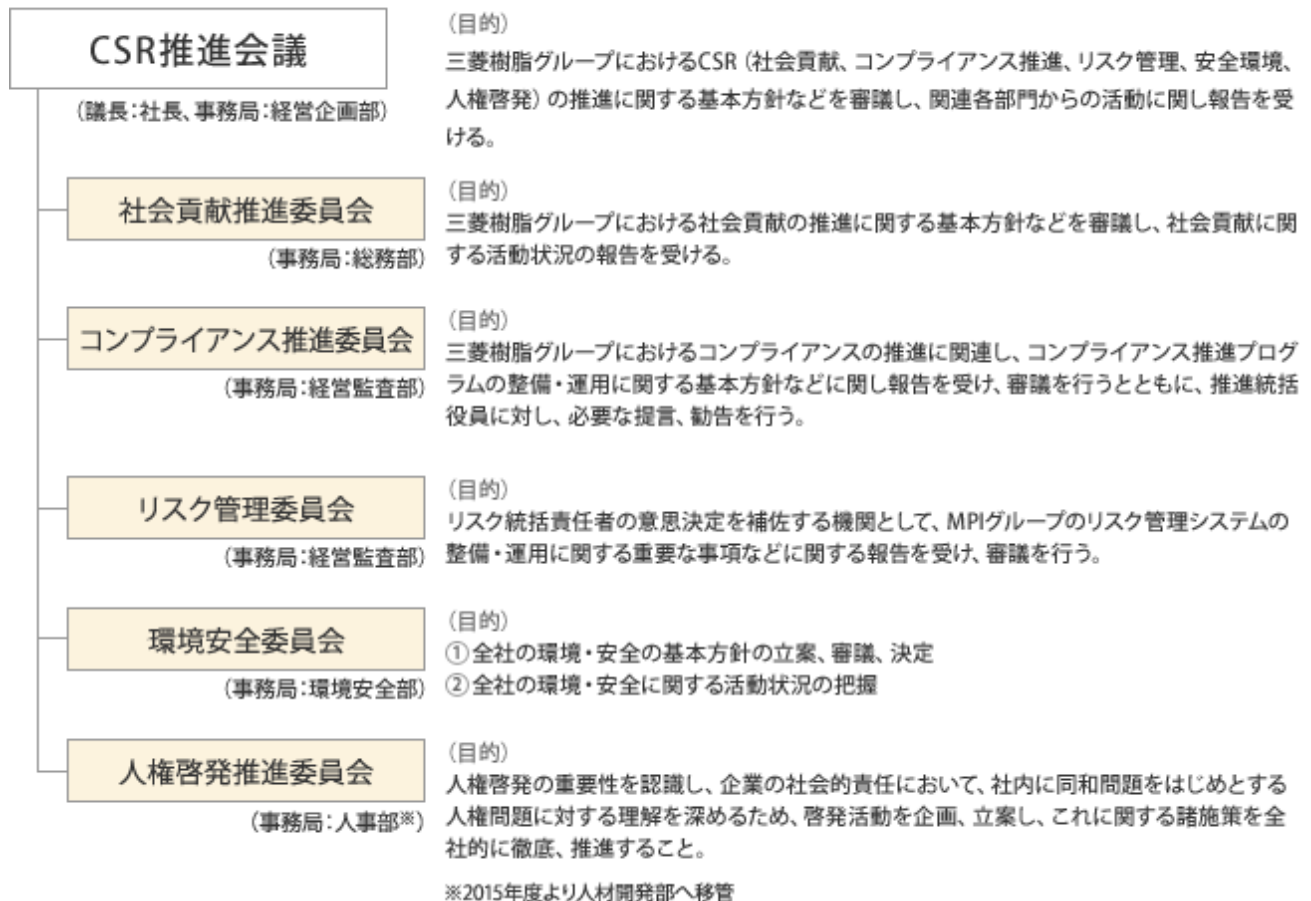
CSR経営の完遂に向けて、社長を議長としたCSR推進会議を設置しています。CSR推進会議では、CSRの5本柱(社会貢献、コンプライアンス推進、リスク管理、安全環境、人権啓発)に関する方針などを審議しています。また、同会議のもと、5本柱に対応する5つの委員会を設けてCSR活動を強化しています。



CSR推進会議

三菱樹脂グループでは、5つの委員会体制でCSR活動を推進しています。

各委員会委員長は、原則として取締役の中から任命する。



コンプライアンスの推進

三菱樹脂グループは、グループ一体となってコンプライアンスを推進しています

三菱樹脂グループでは、「コンプライアンス」を法令遵守にとどまらず、高い倫理観と社会的領域をもった企業行動という意味で使用しています。また、コンプライアンスを徹底するために「三菱樹脂グループコンプライアンス ガイドライン」を制定・冊子化し、全グループ従業員に配布し、共通認識を深めています。

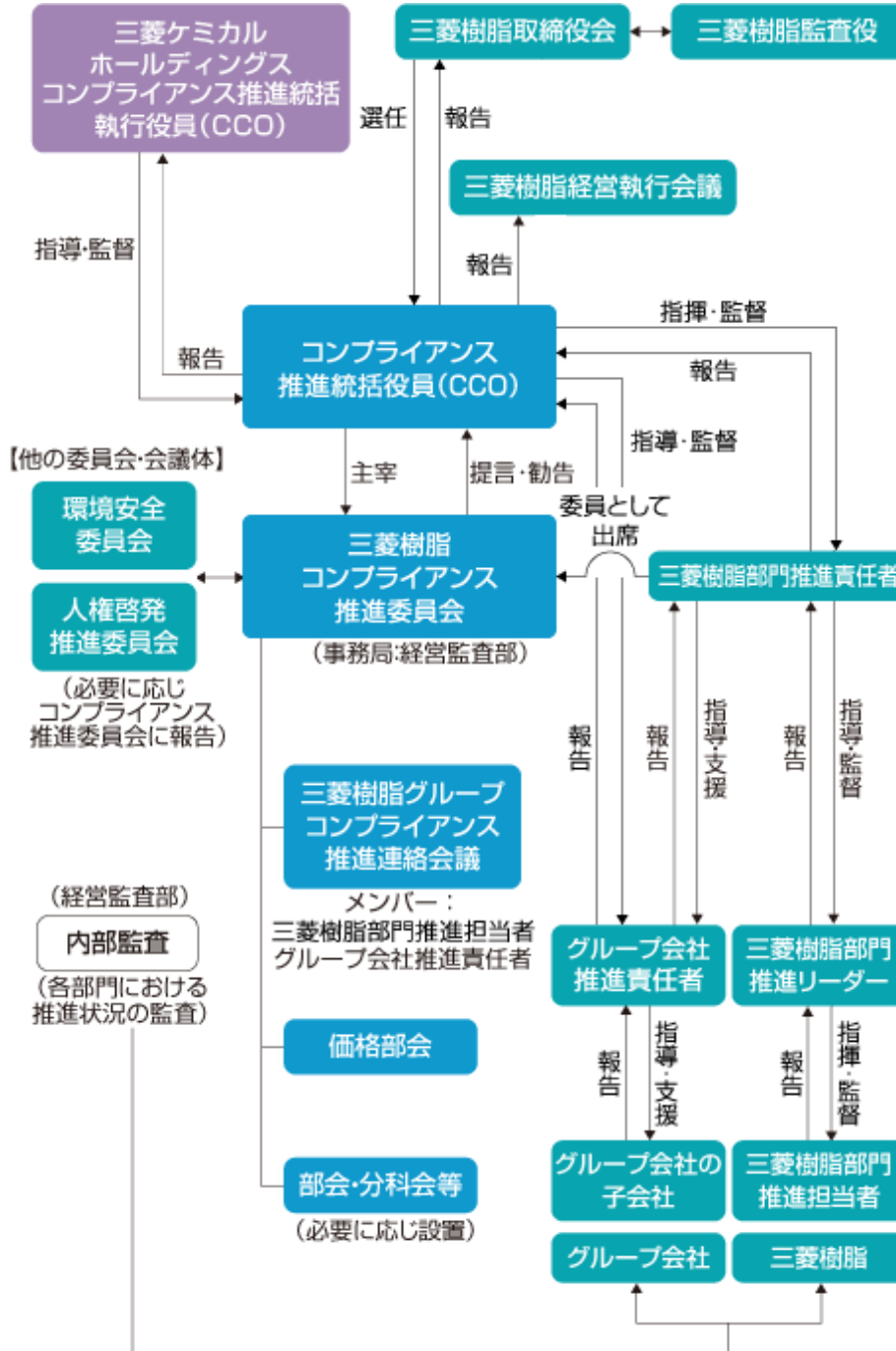
コンプライアンスの推進体制

コンプライアンス推進統括役員のもと、コンプライアンス推進委員会を設け、三菱樹脂グループコンプライアンス推進連絡会議などを開催するとともに、部門コンプライアンス推進責任者・同推進リーダー・同推進担当者および推進事務局を設置しています。また、三菱樹脂グループの構成員が職制を通さずにコンプライアンスに関する相談又は報告ができる窓口としてコンプライアンス・ホットラインを社内と弁護士事務所に設置しています。



三菱樹脂グループ コンプライアンス推進連絡会議

三菱樹脂グループ・コンプライアンス推進体制図



コンプライアンス研修の充実

新入社員をはじめとして、各階層別や職制としての課長・グループリーダーを対象とした様々な研修を実施しています。また、E-ラーニングを使用した全グループ構成員を対象としたコンプライアンス自主研修も開催しています。さらに、毎年11月はコンプライアンス強化月間として、コンプライアンス推進統括役員(CCO)からメッセージを渡し、全グループ構成員の意識向上を図っています。また、外部講師を迎えて、各種の法令遵守にとどまらないコンプライアンス全般についての講演会を開催し、社長をはじめ役員(グループ会社含む)、管理職を中心に多くの従業員が参加しています。



【講演会】
警察大学校警察政策研究センター 樋口晴彦教授
演題:「企業不祥事例から学ぶ失敗の教訓」

コンプライアンスの基本

コンプライアンスの推進・確保のために、三菱樹脂グループ従業員に配布される冊子「三菱樹脂グループコンプライアンスガイドライン」において、グループ構成員の責務として5つの基本を守るよう、要請しています。

グループ構成員の責務

- 1** 日々の業務の遂行にあたり、関連する諸法令、「グループ・コンプライアンス共通規程」、自社の指針、規程、規則、基準、マニュアル類を正しく理解し、遵守すること
- 2** 日ごろからコンプライアンスに関する意識と感性を高め、会社が開催する講演会、研修等に積極的に参加すること
- 3** 日々の業務の遂行にあたり、自らの考えや行動にコンプライアンス上の問題がないか常に確認をするとともに、疑義を感じた場合には、直ちにその行動を中止し、会社に相談・報告すること
- 4** コンプライアンス違反に該当すると考えられる行為又はそのおそれがあると考えられる行為を知った場合には、これを黙認・放置せず、自社のホットラインなどの相談・報告制度を利用して、会社に相談・報告すること
- 5** 次に掲げることを理由として、自らが行ったコンプライアンス違反を正当化しないこと
 - 1) コンプライアンスについて正しい知識がなかったこと
 - 2) コンプライアンス違反を起こす意思がなかったこと
 - 3) 会社の利益を図る目的で行ったこと

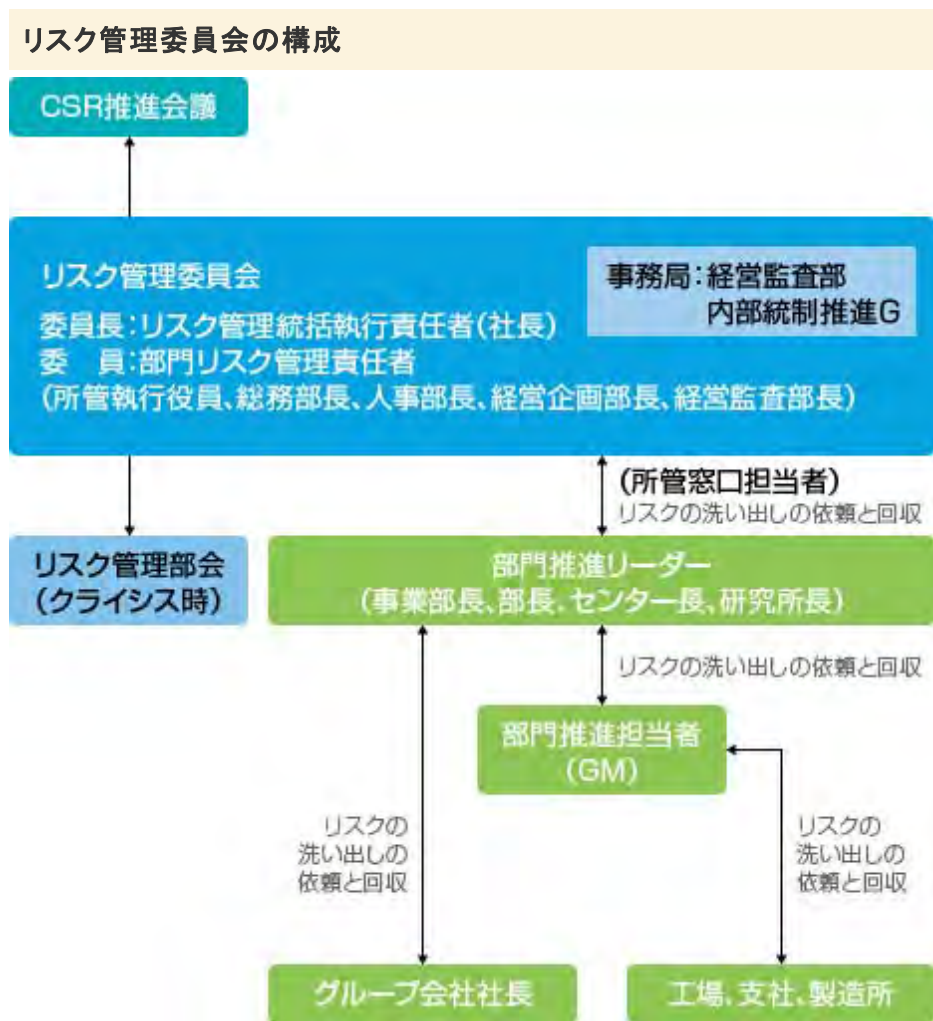
リスク管理

専門委員会を設け、リスク管理を徹底しています

三菱樹脂グループとしての社会的責任を果たし、企業価値の維持・向上を図るために、「三菱樹脂グループ・リスク管理規程」を定め、グループ全体のリスク管理を徹底しています。また、リスクを管理するための組織としてリスク管理委員会を設けています。各部門は、事業上の現存リスクと潜在リスクを認識・分析・評価したうえで、その対策を立案し実行します。リスク管理委員会は、重大リスクの顕在化を防ぐとともに、万一リスクが顕在化した場合に備えて、人的・経済的・社会的損害を最小限にとどめるためのリスク最小化に取り組んでいます。

リスクの洗い出し

社長をリスク管理統括執行責任者とするリスク管理委員会では、各部門に対して、年1回のリスクの洗い出しと評価・ランク付けの見直しの実施を指示し、リスク管理目標、リスク低減策等当該リスクをミニマイズするために必要な措置について報告させています。さらに、経営監査部による定期的な内部監査を通じ、適切かつ円滑なリスク管理システムの運用を図っています。



リスク対応策の立案と進捗の確認

2014年度に洗い出されたリスクの件数は、2,629件(2013年度 2,052件)でした。事業を取り巻く環境が年々変化していることから、洗い出されるリスク件数も多いだけでなく、内容も複雑になってきています。そのため、各部門では洗い出したリスクに関する対応策、特に最重要・重要リスクに対してはアクションプランを作成したうえで、リスク対応策を実施し、モニタリングによってその進捗状況をリスク管理委員会が定期的に確認する仕組みをとっています。

リスク報告会の開催

リスク管理委員会は、工場や支社、グループ会社の部課長・グループリーダーに対して、リスク報告会を実施することを通じて、グループ構成員のリスク管理に対する意識を高めるなどの啓発に努めています。

社会とともに

三菱樹脂グループは、社会から信頼され共感を得られる企業を目指して、社会貢献をCSR経営の5本柱の1つに掲げ、次の理念に基づき体系的かつ継続的に行っています。

社会貢献活動理念

三菱樹脂グループは積極的に社会貢献活動を推進し、
企業理念である、豊かな社会作りに貢献します。

活動事例

▶ 従業員の活動



全員で取り組める活動として、エコキャップ運動やマッチングギフトに取り組んでいます。

▶ 地域での活動



地域社会への貢献として、清掃活動や工場見学の受け入れ等を実施しています。

▶ その他の活動



上記以外にも様々な社会貢献活動を実施しています。

▶ 東日本大震災の被災地への支援




被災地の復旧復興に向け、製品供給やボランティア活動を通じた支援に取り組んでいます。

従業員の活動

三菱樹脂グループは、全国の拠点やグループ会社における社会貢献活動として、マッチングギフト(社内募金制度)やエコキャップ運動等に取り組んでいます。

マッチングギフト制度(愛称:プラスくん募金)

社会貢献の一環として、NGO/NPO法人の各種活動に対し社内イントラネットを通じて行う寄付制度(マッチングギフト制度、愛称プラスくん募金)を導入しています。この制度は、従業員個人がNGO/NPO法人実施の各種社会貢献活動に賛同して寄付を行った際、会社が同額を上乗せして寄付をするというマッチングギフト制度であり、従業員と会社が共同で、NGO/NPO法人を支援する仕組みになっています。また、単に募金を行うだけでなく、この活動を通じて、当社の従業員が国内外で起きている様々な社会問題を認識し、世の中に対し広い視野を持つことも目的としています。現在、以下の4つのNGO/NPO法人の国内外の事業に対して支援を行っており、2014年度は、4団体合計で1,193,100円の募金を行いました。



プラスくん募金 ~三菱樹脂グループのマッチングギフト制度~

募金一覧

オイスカ(OISCA)	【育】人・村・森を育てます！ オイスカは人材育成を通じた農村開発・環境保全を行っています。
ジョイセフ(JOICFP)	途上国で命の危険にさらされて出産・育児をしなければならない女性を守るための支援です。
ピースウィンズ・ジャパン (peace winds JAPAN)	【peace winds JAPAN】紛争や自然災害などにより、生命が脅かされている人びとに対し、迅速に緊急人道支援を行います。
フローレンス(Florence)	病児保育問題を解決することで、子育てと仕事の両立を支援します！

社内イントラネット上のプラスくん募金の画面

エコキャップ運動

エコキャップ運動とは、キャップのリサイクルによる売却益を発展途上国や障がい者の支援、また国内外での被災地支援に役立てる運動です。三菱樹脂グループは、このエコキャップ運動に賛同し、キャップの回収ボックスを設置し、運動に取り組んでいます。2014年度は492,860個のキャップを回収しました。



本社



長浜・浅井工場



山東工場



平塚工場

地域での活動

三菱樹脂グループは、地域社会に貢献すべく、地域の特性・ニーズに合わせた拠点毎の活動を実施しています。

清掃活動

各拠点では、周辺地域の清掃活動に取り組んでいます。



長浜・浅井工場
琵琶湖一斉清掃



山東工場
工場周辺清掃



平塚工場
渋田川清掃



羽生製造所
工場周辺清掃



関西支社
大阪マラソン清掃ボランティア



九州支社
NPO法人主催の清掃活動への参加

次世代育成(課外学習への協力)

地元小学校・中学校・高校の企業訪問および工場見学の受け入れなどを通じ、次世代育成を支援しています。



本社
地元中学校の企業訪問



長浜・浅井工場
地元中学校の職場体験(緑地管理業務)



浅井工場
地元小学校の工場見学



平塚工場
地元高校の工場見学



上田工場
夏休み親子見学会



Mitsubishi Plastics Composites America, Inc.
地元中学校の工場見学

地域への協力

周辺地域のイベントへの参加および敷地の貸し出しを通じ、地域住民の皆さんとの交流を図っています。



本社
千代田区社会福祉活動「福祉まつり」への参加



長浜工場
地元幼稚園の運動会へのグラウンド貸出し



平塚工場
近隣小学校の構内でのどんぐり拾い受け入れ



郡山製造所
地元少年野球チームへのグラウンド貸出し



北海道支社
近隣公園の植栽活動への参加

平塚工場の「2014環境報告書」が、環境省と一般財団法人地球・人間環境フォーラムの主催する環境報告書の表彰制度「第18回環境コミュニケーション大賞」において、「環境報告書部門 優良賞」を受賞しました。本受賞では、サイトレポートにとって必要な情報をわかりやすく、かつ真摯に伝えようとしている姿勢や、環境苦情・事故に関する情報も積極的に開示している点などが高く評価されました。

▶ 受賞概要



山本良一審査委員長と平塚工場 環境安全品証部の豊田部長(右・当時)

その他の活動

三菱樹脂グループは、その他にも様々な社会貢献活動を実施しています。

献血

国内のみならず遠く海外においても、社会貢献活動として献血に協力しています。



本社



平塚工場



Mitsubishi Polyester Film社
(アメリカ)

協賛

文化・芸術や地域交流の振興を図るため、地域の各種イベントに協賛しています。



長浜工場
地域の歴史・文化施設の保全活用への協賛
当社施設「太湖寮」の庭園を期間限定で一般公開




長浜工場
滋賀県子ども会連合会主催イベントへの協賛
出前教室を実施

■ 三菱広報委員会を通じた活動

三菱広報委員会は、子どもたちの識字教育支援と、絵日記を通じて交流の輪を広げることを目的とした活動「三菱アジア子ども絵日記フェスタ」を1990年より展開しています。当社も三菱広報委員会の一員として、この活動を支援しています。



▶ 三菱アジア子ども絵日記フェスタ 



東京都千代田区で開催した展示会の様子(2014年)



兵庫県神戸市で行った国際表彰式(2013年)

東日本大震災の被災地への支援

三菱樹脂グループでは、2011年3月11日に発生した東日本大震災の被災地への支援として、緊急支援物資(当社製品)の提供や従業員と会社のマッチングギフトによる募金の寄付、NPO法人と連携した従業員によるボランティア活動を実施しました。また、一日も早い復旧・復興に向けて、当社製品を優先的に供給するなど、製品の供給面でも支援を行いました。現在も、製品や技術、土地の提供などを通じて被災地の復旧・復興を支援しています。

※継続性の観点から、2014年度以前の活動についても報告対象としています。

- ▼ 各拠点における復興支援
- ▼ 復旧復興のための製品供給
- ▼ 緊急支援物資の提供
- ▼ 寄付
- ▼ 従業員によるボランティア活動

各拠点における復興支援

被災地における新たな農業をシステムと技術で支援

2011年3月に発生した東日本大震災の津波によって、東北太平洋沿岸部には、今も塩害により耕作できない農地が数多く存在しています。こうした厳しい環境下でも収益性が高く安定した農業ができるように、宮城県仙台市の農業生産法人である株式会社みちさきは、三菱樹脂アグリドリーム社の養液栽培システムを用いた太陽光利用型植物工場を導入。2013年6月よりサラダホウレンソウの栽培をスタートしました。三菱樹脂アグリドリーム社は、システム導入後も、季節による品種選択や播種間隔などの技術的な支援を行うことで、システムと技術の両輪で農業の復興を支えています。



株式会社みちさきの植物工場

- ▶ [太陽光利用型植物工場の製品ページ](#)

郡山製造所の敷地・工場屋根を太陽光発電事業用地として貸与

郡山製造所では、未活用地および工場建屋の屋根の一部を社外の太陽光発電事業向けに貸与し、各社が太陽光発電事業を行っています。未活用地は三井物産株式会社に貸与し、約48,000m²の敷地に11,466枚の太陽光パネルが設置されました。年間予想発電量は約3,160MWhの規模で一般家庭約880世帯分の年間消費電力に相当し、2014年11月から売電を開始しています。一方、工場建屋の屋根はオリックス株式会社に貸与し、屋根上約6,000m²に2,639枚のパネルが設置されました。年間予想発電量は約663MWhの規模で一般家庭約185世帯分の年間消費電力に相当し、2014年1月から売電を開始しています。

発電した電力はともに、東北電力株式会社に全量売電され、地域の電力の安定供給に貢献しています。



三井物産株式会社のソーラーパネル



オリックス株式会社のソーラーパネル

復旧復興のための製品供給

三菱樹脂インフラテック社では、土木資材や建築資材、建築設備など、多くの製品を復旧復興資材として供給しています。

貯水タンク「ヒシタンク[®]」

震災による貯水タンクの漏水、破損状態の点検・確認、補修等への素早い対応を実施するべく、東北エリアへの人員増強をはかるとともに、仙台市内で運輸倉庫を借り、現地での出荷体制を構築しました。また、仮設住宅の皆様方に安全・安心な水をいち早く供給するため、製品の納入を優先しました。

貯水タンクは、震災などの緊急時に水源としてライフラインの源となります。これからも、防災の観点からも全国に普及するよう積極的な展開をまいります。



貯水タンク「ヒシタンク[®]」

フレキシブルコンテナ「ダイヤテナー[®]」

フレキシブルコンテナは、通常は主にプラスチックや化学工業品の運搬、保管に使用されているものですが、その優れた気密性や防水性から、放射能によって汚染された土の除染用途(運搬・保管)にも使用されています。除染された土をフレキシブルコンテナに充填した後、中間貯蔵施設に運搬し、長期間にわたり保管されます。



フレキシブルコンテナ「ダイヤテナー[®]」

土壌浸食防止ブロックマット「ゴビマット®」

震災では、津波により、多くの水路が破壊され、地盤沈下により周辺地域からの排水ができなくなる被害が発生しました。その後の治水対策として、河川に、土壌浸食防止ブロックマットが使用されています。2012年には、三菱樹脂インフラテック社東北支店(仙台市)に土木グループを設置し、現地での復興支援体制を整えました。



「ゴビマット®」が敷設された川内沢川

緊急支援物資の提供

2011年3月、食品包装用ラップフィルム「ダイアラップ® エコぴたっ!®」(50mの長巻品)10万本を、宮城県、岩手県、福島県の仮設住宅などに支援物資として提供しました。



食品包装用ラップフィルム「ダイアラップ® エコぴたっ!®」

2012年1月、三菱樹脂グループのアstro社が、特定非営利活動法人「ケアセンターやわらぎ」を通じて、宮城県の仮設住宅に人工芝「アストロターフ®」を寄贈しました。なお、この人工芝は、玄関のスロープなどに使用されました。



アストロ社の人工芝「アストロターフ®」

寄付

三菱ケミカルホールディングスグループとしての寄付

2011年3月、三菱ケミカルホールディングスグループとして、自治体およびNPO法人に対して、1億円の寄付を行いました。

従業員募金・会社マッチングを寄付

東日本大震災義援金募金活動を実施しました。従業員からの寄付金に合わせて会社も義援金を抛出(マッチングギフト制度)し、2011年3月から7月の間、合計約1千4百万円を日本赤十字社および被災地復旧活動を行なっているNPO法人ピースウィンズ・ジャパンへ寄付しました。

古本市の収益金を寄付

2012年1月、本社ビルにおいて、従業員から集めた古本を社内販売し、その売上金(約5万円)を公益社団法人シャンティ国際ボランティア会が実施する「いわてを走る移動図書館プロジェクト」(被災地の仮設住宅に本を届ける活動)に寄付しました。



従業員によるボランティア活動

東北復興支援イベントの開催

三菱ケミカルホールディングスグループは、東北の復興支援活動の一環として、特定非営利活動法人グッドネーバース・ジャパン[※]のご協力のもと、2012年より毎年、東日本大震災の津波で甚大な被害を受けた岩手県釜石市と大槌町の小学生とその保護者を東京に招待し、東京地区の観光及び本社ビルでの科学実験教室を行う東北支援イベント「東京へ行こう」を開催しています。2014年度は合計71名を招待し、子ども達のひとつの気分転換とともに、科学に対する興味・関心をもっていただく機会になりました。

[※] 特定非営利活動法人グッドネーバース・ジャパンは、世界20ヶ国以上で子ども教育支援、人道・開発援助、緊急支援活動を行う国際組織グッドネーバース・インターナショナルの一員です。



集合写真



科学実験教室

2014年11月、三菱ケミカルホールディングスグループは、本社パレスビルにおいて、福島県、宮城県、岩手県のアンテナショップのご協力のもと、「東北三県物産展」を開催しました。当日は多くのグループ従業員が特産品を購入し、イベントは大盛況となりました。



多くの人で賑わう物産展

被災地向けチャリティーグッズの製作

2014年11月、本社パレスビルにおいて、従業員有志が針と糸を使い象の形をしたタオル「まもりたいぞう」を製作するイベントを実施しました。製作した「まもりたいぞう」は、社会福祉法人千代田区社会福祉協議会が運営する「ちよだボランティアクラブ」に寄付し、同クラブが社会貢献イベントなどで販売した収益が、東日本大震災の復興支援に活用されています。



「まもりたいぞう」の製作

被災地に送る支援物資仕分け

2011年6月、本社ビルにおいて、従業員有志が岩手県大船渡市や陸前高田市の仮設住宅に送る支援物資(夏服)の仕分け作業をNPO法人ピースウィンズ・ジャパンとともに実施しました。



支援物資の仕分け



支援物資の荷積み

被災地でのボランティア活動

NPO法人ピースウィンズ・ジャパンの被災地での支援ボランティア活動に、三菱ケミカルホールディングスグループとして当社グループの従業員も参加しました。

期間: 2011年7月～2012年3月

場所: 岩手県(陸前高田市、大船渡市、釜石市)、宮城県(気仙沼市)

内容: 仮設住宅への荷物搬入、ヒヤリング調査、ボランティアセンターで紹介された作業等

参加人数: 208名(MCHCグループ全体)



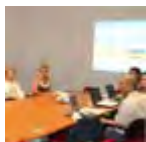
トラックで運ばれてきた支援物資



段ボールの開梱と運搬作業

地球環境とともに

RC (レスポンシブル・ケア) 活動計画



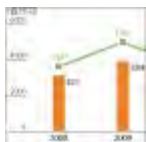
RC活動の実践・強化で環境経営の実現をめざします。

環境負荷の低減



省資源化やゼロエミッション活動など、環境に配慮した事業活動を推進しています。

環境会計データ



環境負荷や環境保全に関わる費用と効果を定量的に測定し公開しています。

二酸化炭素排出量の削減



地球温暖化防止をめざして、二酸化炭素排出量などの削減に取り組んでいます。

環境貢献型商品



環境に貢献することができる商品を環境貢献型商品として定め、その開発及び販売に積極的に取り組んでいます。

RC(レスポンシブル・ケア)活動計画

RC活動の実践・強化で環境経営の実現をめざします

三菱樹脂グループでは、環境経営の実現をめざして、安全衛生活動を基盤に、環境に配慮したモノ造りと技術開発を推進するべく、RC(レスポンシブル・ケア)活動※に取り組んでいます。中期経営計画(APTSIS15・Plus)の4年目である2014年度は、2015年度の目標達成に向けた重要な年として、各々の活動に取り組みました。

※RC(レスポンシブル・ケア)活動: 製品の開発や製造、使用、廃棄の全サイクルにおいて、環境や安全の確保を公約し、対策を行う自主管理活動のこと。

安全環境の取り組み

三菱樹脂グループは、中期経営計画(APTSIS15・Plus、2011～2015年度)におけるRC活動計画として「安全で安心できるKAITEKI職場づくり！」を基本方針とし、2025年のありたい姿を実現するため、各年度目標を設定し、その活動を展開しています。

RC(レスポンシブル・ケア)活動計画

分野	項目	課題	2014年度目標	2014年度実績	評価	2015年度目標
環境管理 活動強化	サステナビリティ 活動の推進	ゼロエミッション活動の 継続推進	ゼロエミッション率: 0.4%	ゼロエミッション率: 0.34%	○	ゼロエミッション率: 0.3%
		環境保全活動の推進	従業員への教育、 活動の浸透	各場所の生物多様性 保全活動の継続	○	各工場への展開 (自主活動)
			製品のLCA評価の取り 進め	三菱ケミカル ホールディングスとして 取り組み実施	○	外部検証が受けられる レベル
			環境貢献型商品:対売上 高比率18%	環境貢献型商品:対売上 高比率15%	×	環境貢献型商品:対売上 高比率20%
	環境 マネジメント システム管理	産業廃棄物中間処理委託 業者現地確認の徹底	現地確認率100%	現地確認率100%	○	現地確認率100%
		循環資源再資源化処理 委託業者現地確認の徹底	現地確認率100%	現地確認率100%	○	現地確認率100%
		土壌汚染管理の強化	土壌汚染監視継続	土壌汚染監視継続	○	土壌汚染監視継続
		行政届出管理の強化	是正項目ゼロ	是正項目ゼロ	○	是正項目ゼロ
	環境管理 物質の 管理強化	環境管理物質管理 システム構築	PRTR集計システムの 導入	PRTR集計システムを 導入	○	環境管理物質管理 システム構築
	MOS指標 (S-1)管理	SOx、NOx、VOC、 ばいじん、PRTR、全窒素	事業拡大の中、現状指標 を維持・継続する	VOC物質の増加	△	事業拡大の中、現状指標 を維持・継続する
安全活動の 推進・定着	全社安全 成績の向上	休業労働災害"ゼロ"	休業無災害365日達成	5月に休業災害2件発生、 その後は無災害継続 (231日)	△	不休業以上の 労働災害"ゼロ"
		不休業災害以上災害の 撲滅	動く設備への手出し災害 撲滅	5月に手出し休業災害 2件発生	×	
	安全活動強化	新安全パトロールの 活動強化	全社平均 B+ 課長事前準備重視型	全社平均 B (3.9)	△	全部署 B+以上
		新設・改造設備 安全診断の継続・強化	全診断対象判定B以上	234件実施 全て判定B以上	○	全診断対象判定B以上
		現場管理基準7点セット 活動の浸透と活性化	全社平均 3以上 目標達成率 90%以上 部署長向け活動の手引き 作成	全社平均 3.6 目標達成率 88% 部署長教育資料作成	○	全部署 3以上
		決まったことを守る 風土造り・危険に対する 感受性向上	夏季安全活動強調期間 実施 個人安全レベルチェック 継続 スタッフ安全教育継続	夏季安全活動強調期間 実施による労働災害削減 個人安全レベルチェック 実施 スタッフ安全教育実施	○	個人安全レベルチェック 継続 スタッフ安全教育継続

安全環境における2025年のありたい姿

三菱樹脂グループでは、「安全で安心できる職場環境の中、環境に配慮した商品を安定的に供給できる体制づくり」を方針に、2025年度のありたい姿を策定しています。

安全環境でのありたい姿(2025年)

分野	項目	2025年のありたい姿
環境配慮型 モノ造りの強化	環境負荷物質排出量削減	事業拡大に伴うCO2排出量を20%抑制（成り行き増比）。 他環境負荷物質排出量の現状維持（NOx、SOx、ばい塵、排水中全窒素、VOC）
	環境マネジメント推進	完全ゼロエミッションの達成 ゼロエミッション率0.0%
	環境マネジメントシステム強化	海外含むグループ全社構築
	環境管理物質の管理強化	化学物質管理システム構築
安全衛生活動 の定着	全社安全成績の向上	年間労働災害“ゼロ”の達成
	真に効果的な安全管理体制確立維持	RA※1を基本評価指標とする客観的な安全レベル把握により、 後戻りしない職場安全環境の実現、維持

※1 RA(リスクアセスメント)：危機の発生に際して、データに基づき、影響度を評価すること

環境負荷の低減

環境に配慮した事業活動の推進

三菱樹脂グループでは、製造部門での省資源化やゼロエミッション活動など、環境に配慮した事業活動を推進しています。そして、それらを確実に遂行するため、廃棄物処理の管理強化をはじめとした環境マネジメントの深化に努めています。

※国内生産関係会社を対象範囲としています。詳しくは対象期間と範囲をご覧ください。

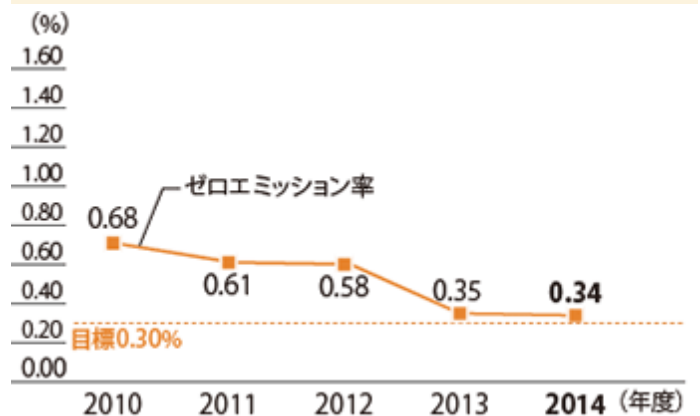
- ▼ ゼロエミッションの推進
- ▼ 処理委託業者への現地確認
- ▼ 再資源化への取り組み
- ▼ 総廃棄物量の削減
- ▼ 環境負荷物質の排出量の削減
- ▼ 環境管理物質の管理
- ▼ PRTR対象物質の管理
- ▼ VOC(揮発性有機化合物)の削減

ゼロエミッションの推進

三菱樹脂グループでは、ゼロエミッション率[※]を、2015年度までに「対象の全事業所で0.3%以下にすること」を目標に掲げて、埋め立てや単純焼却の削減に取り組んできましたが、2014年度は、ゼロエミッション率0.34%と2015年度目標に大きく近づきました。今後もグループ全体で、廃棄物の分別管理の徹底や処理先との連携強化、委託先の見直しなどを実施し、2015年度ゼロエミッション率0.3%という目標の達成を目指して、活動を推進していきます。

※ゼロエミッション率=(埋立+単純焼却)/総廃棄物量

ゼロエミッション率の推移



処理委託業者への現地確認

三菱樹脂は、産業廃棄物の適正な処理や再資源化を徹底するため、中間処理委託業者や再資源化処理委託業者への現地確認を年1回の実施を目標に進めています。2014年度の産業廃棄物中間処理業者の現地確認実施率は、昨年に続き、100%（確認対象88社、確認実績88社）を達成し、循環資源再資源化処理委託業者の現地確認実施率も昨年に続き100%（確認対象59社、確認実績59社）を達成しました。今後も中間処理業者の現地確認実施率、再資源化処理委託事業者の現地確認率とも100%を維持することを目標に、現地確認の対象範囲を収集・運搬業者まで広げ、活動を継続していきます。

産業廃棄物中間処理委託業者および循環資源再資源化処理委託業者への現地確認実施率

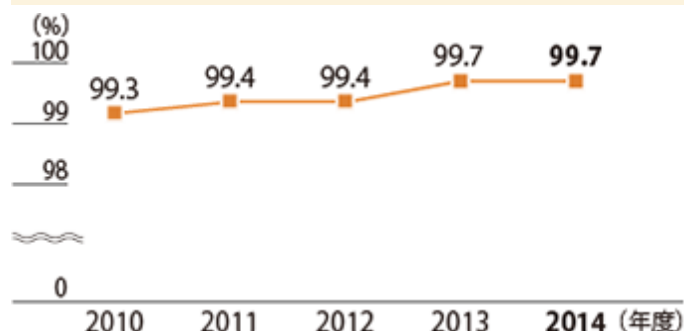


再資源化への取り組み

2014年度の再資源化率は昨年より向上し、99.7%となりました。熱エネルギーとして回収するサーマルリサイクル率は13%、原料として再利用するマテリアルリサイクル率は87%でした。

なお、三菱樹脂グループが生産・販売している製品についても、関連団体を通じた回収を実施するなど、その再資源化を進めています。たとえば、アルミ樹脂複合板「アルポリック®」は廃材の再生処理について環境大臣の認定を受けており、全国から廃材を回収し、再資源化を行っています。

再資源化率



マテリアルバランスの状況

INPUT			
原材料	エネルギー/用水	包装材料	燃料
プラスチック :176,573トン	購入電力 :593GWh	ダンボール :4,499トン	ガソリン :146kL
金属類 :61,349トン	A重油 :3kL	紙類 :13,183トン	軽油 :8,351kL
化学素材他 :33,478トン	灯油 :237kL	プラスチック類:2,607トン	
(合計 :271,400トン)	都市ガス :22,399km ³	木材 :3,712トン	
	その他 :24,423kL	金属類 :13トン	
	(原油換算 :200,063kL)	(合計 :24,014トン)	
	上水道 :172km ³		
	工業用水 :2,355km ³		
	地下水 :10,423km ³		
	(用水合計 :12,950km³)		



OUTPUT				
製品	大気	化学物質	廃棄物	排水
26万トン	CO ₂ :428千トン-CO ₂	PRTR 対象物質 :8トン	再資源化量 :37,011トン	10,948km ³
	NOx :71トン		単純焼却量 :81トン	
	SOx :0トン		埋立処分量 :2トン	
	ばい塵 :6トン		総廃棄物量 :37,094トン	

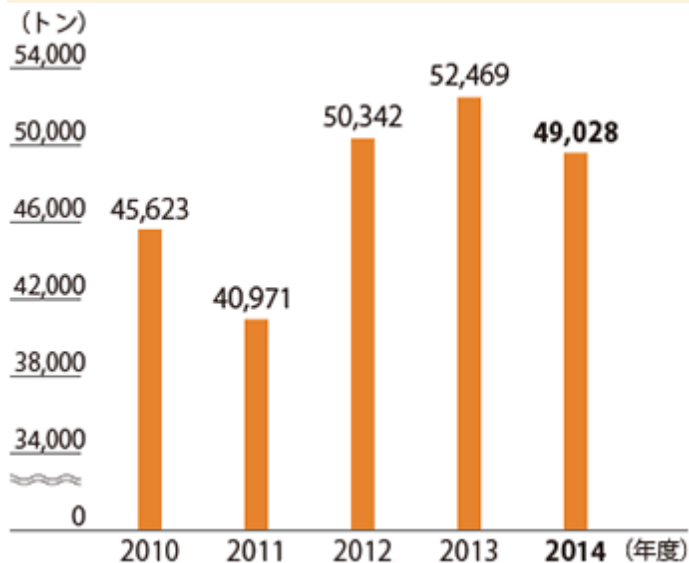
※三菱樹脂(単体)の数値

※重量での算出が難しい製品を除く

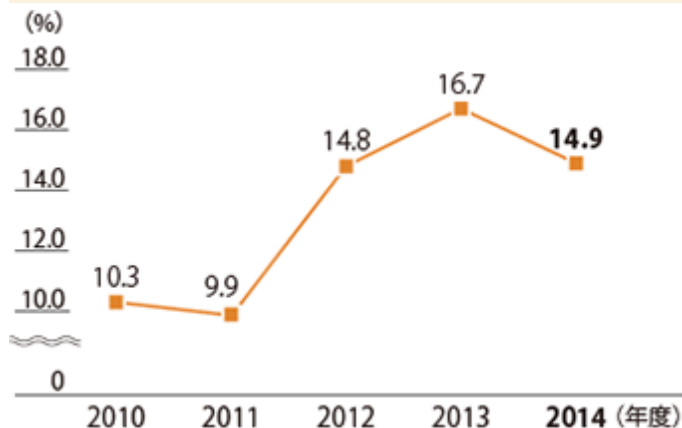
総廃棄物量の削減

事業再編の影響により、2012年度の総廃棄物量および廃棄物原単位が2011年度より大きく増加し、2014年度の総廃棄物量は昨年に比べやや減少しました。

総廃棄物量の推移



廃棄物原単位推移

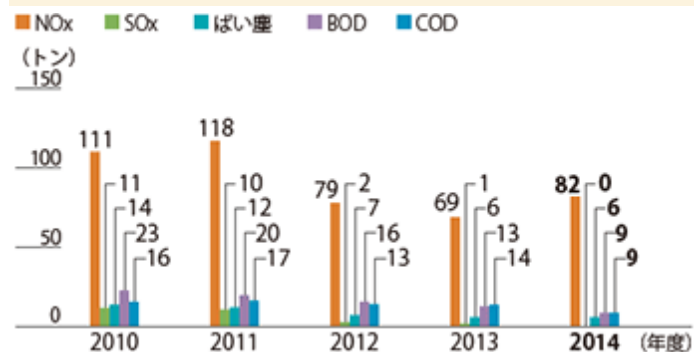


※廃棄物原単位 = (総廃棄物量 / 生産量) × 100

環境負荷物質の排出量の削減

事業が拡大する中、環境負荷物質の排出量を増加させないため、各事業所で環境負荷物質の排出量を削減するためのさまざまな活動に取り組んでいます。一例としては、山東工場でC重油から天然ガスへの燃料転換を実施し、その結果、2012年度は省エネ効果とともに燃料由来の硫黄酸化物(SOx)を約10トン削減することができました。2014年度も前年度と同レベルの環境負荷物質の排出量を維持しています。

環境負荷物質の排出量の推移



※ BOD (Biochemical Oxygen Demand) : 生物化学的酸素要求量

GOD (Chemical Oxygen Demand) : 化学的酸素要求量

環境管理物質の管理

三菱樹脂では自社製品について、地球環境や人体に影響を及ぼす環境管理物質を管理し、使用禁止物質の商品への混入防止や環境管理物質の使用量削減に向けた取り組みを実施しています。国内の化学物質の審査および製造等の規制に関する法律(化審法)、特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(化管法/通称PRTR法)の対応だけでなく、国外においては、欧州REACH規制への対応の他、中国、台湾をはじめとしたアジア等の法規にも対応しています。また、原材料に含まれる化学物質を管理するシステムの構築、JAMP※1、JIPS※2への対応等を現在取り進めています。

※1 JAMP(アーティクルマネジメント推進協議会): アーティクル(部品や成形品等)が含有する化学物質等の情報を適切に管理し、サプライチェーンの中で円滑に開示・伝達するための具体的な仕組みを作り普及させるため、業界横断の活動推進主体として発足した組織とその取り組み

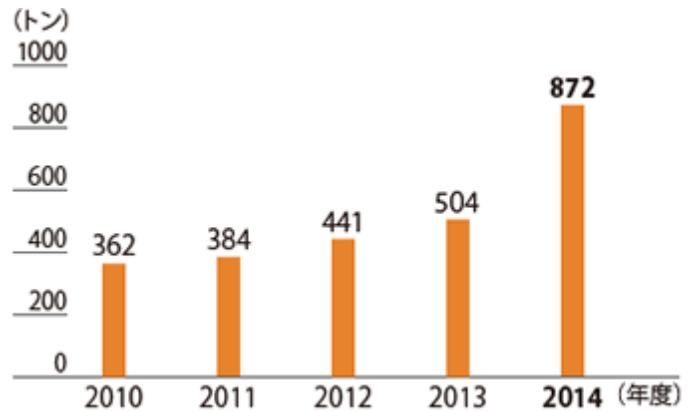
※2 JIPS(Japan Initiative of Product Stewardship): 日本化学工業協会による、サプライチェーンを考慮したリスク評価およびリスク管理をベースにした産業界の自主的取り組み

PRTR対象物質の管理

三菱樹脂グループは、PRTR※対象物質についても、適正な管理を徹底しています。2014年度は、PRTR対象物質を使用する特殊銘柄の生産が増加した影響で、PRTR対象物質の排出・移動量が増加し、872トンとなりました。今後、法律で定められた排出・移動量などを把握することはもちろん、可能な限り有害物質の使用量削減に努めています。

※PRTR(Pollutant Release and Transfer Register): 化学物質排出移動量届出制度

PRTR対象物質の排出・移動量の推移



2014年度PRTR対象物質の実績

[トン(ダイオキシン類はmg-TEQ)]

PRTR No	名称	取扱量	使用量 (製品)	有価物量 (リサイクル)	大気への 排出量	水域・土 壌への 排出量	廃棄物と しての排 出量	排出・移動量		
								2014	2013	差
1	亜鉛の水溶性化合物	6.1	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
31	アンチモン及びその化合物	6.5	4.6	0.0	0.0	0.0	1.9	1.9	2.4	-0.5
53	エチルベンゼン	70.0	46.8	0.0	0.0	0.0	23.1	23.1	19.3	3.8
76	ε-カプロラクタム	3,102.4	2,941.8	17.5	0.9	0.0	142.3	143.1	117.1	26.0
80	キシレン	161.2	135.6	0.0	0.0	0.0	25.6	25.6	26.4	-0.8
88	6価クロム化合物	2.1	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	-0.1
204	ジフェニルエーテル	3.2	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
207	2,6-tert-ブチル-4-クレゾール	8.2	7.7	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
239	有機錫化合物	76.7	70.4	6.2	0.0	0.0	0.2	0.2	0.1	0.1
240	スチレン	625.6	624.3	0.0	0.6	0.0	0.7	1.3	1.2	0.1
296	1,2,4-トリメチルベンゼン	19.6	13.9	0.0	0.9	0.0	4.9	5.8	10.9	-5.1
297	1,3,5-トリメチルベンゼン	4.2	2.7	0.0	0.0	0.0	1.4	1.4	3.3	-1.9
298	メチル-1,3-フェニレン =ジイソシアネート	10.9	10.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
300	トルエン	2,847.1	2,189.1	0.0	591.0	0.0	53.3	644.3	216.2	428.1
302	ナフタレン	1.1	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	-1.2
305	鉛化合物	41.7	40.0	0.6	0.0	0.0	1.1	1.1	0.0	1.1
340	ビフェニル	1.1	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
355	フタル酸ビス (2-エチルヘキシル)	635.5	601.3	32.3	0.1	0.0	1.8	1.9	0.0	1.9
356	フタル酸ノルマル1ブチル =ベンジル	3,268.3	3,156.7	103.6	1.2	0.0	6.7	7.9	0.0	7.9
374	フッ化水素及び その水溶性塩	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0	3.0	-1.0
406	ポリ塩化ビフェニル	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	2.5	0.4	2.2
413	無水フタル酸	2.7	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
438	メチルナフタレン	8.3	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	8.3	5.6	2.7
448	メチレンビス(4,1-フェニレン) =ジイソシアネート	9.5	8.5	0.0	0.4	0.0	0.6	1.0	0.4	0.5
460	リン酸トリトリル	7.1	5.8	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
461	リン酸トリフェニル	1.7	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
243	ダイオキシン類 (単位:mg-TEQ)	3,468	179	0	0	0	3,289	3,289	4,358	-1,069
合 計		10,778	9,747	162	584	0	281	870	402	468

※四捨五入による合計値

※PRTR法に従い、年間取扱量1トン以上(発がん性物質は0.5トン以上)の対象物質を集計

VOC(揮発性有機化合物)の削減

三菱樹脂グループでは、2008年に長浜工場、2009年に菱成樹脂社の金成工場(宮城県栗原市)にVOC※処理設備を設置しました。これにより、三菱樹脂グループにあるVOC排出施設に対するすべての法対応が完了し、大幅にVOCを削減できていましたが、2012年度に新たに2社が三菱樹脂グループに加わり対象製品が増加したため、VOC排出量は増加しました。また、2014年度にはVOC排出量の多い特殊銘柄の製造が増え、合計1,613トンとなりました。今後も各社と連携を図りながら、VOC排出量を削減すべく活動を継続していきます。

※VOC(Volatile Organic Compounds): 揮発性有機化合物。大気中で気体となるトルエン、キシレン、酢酸エチルなどの有機物の総称

VOC排出量の推移



工場の現場から

長浜工場は、琵琶湖をはじめ自然豊かな環境の中に立地しており、RC(レスポンシブル・ケア)活動方針のもと、積極的に環境保全活動に取り組むとともに、情報公開、地域・社会貢献活動にも力を入れています。CSRの五本柱の一つであるコンプライアンスとしても、法令順守は最低限のこととし、地域の方に本当に安心して頂ける工場を目指し、大気、水質などの測定監視を強化し、また、予防としての環境リスク評価と先取り改善、従業員全員の環境意識レベルを向上させるための各種教育・会合を実施しています。



敷地境界臭気測定



近隣住民を招き、
情報開示を実施

Voice

長浜工場は、長浜市の中心街に立地しており、排水、騒音、振動、悪臭等に厳しい管理基準を設け監視を行っています。工場からの排水は琵琶湖につながっているため、特に排水系については管理標準の整備、緊急事態訓練、計画的な設備対応を行い、万一の環境トラブルの場合でも影響を工場の外へは出さないよう、環境影響は最小限にできるよう努めています。



長浜工場
環境安全部長
藤井 一将

環境会計データ

環境保全コスト

[百万円]

分類	主な内容	2013年度		2014年度			増減	
		投資額	費用額	投資額	費用額	費用比率	投資額	費用額
事業 エリア内 コスト	公害防止	753	483	412	477	11%	-341	-6
	地球環境保全	326	1,102	243	1,247	29%	-83	145
	資源調達	349	928	263	1,049	24%	-86	121
	小計	1,428	2,513	918	2,773	64%	-510	260
上・下流コスト	廃材回収など	21	129	5	176	4%	-16	47
管理活動コスト	環境システム・環境教育	7	554	3	444	10%	-4	-110
研究開発コスト	環境配慮型商品開発	0	646	3	905	21%	3	259
社会活動コスト	緑化・情報開示	2	4	0	5	0%	-2	1
環境損傷コスト	土壌汚染修復	51	96	0	31	1%	-51	-65
合計		1,508	3,943	929	4,334	100%	-579	391

環境保全効果(事業エリア内効果)

効果の内容	単位	2013年度	2014年度	増減
NOx排出量	トン	69	86	17
SOx排出量	トン	1	0	-1
ばい塵排出量	トン	6	8	2
BOD排出量	トン	13	9	-4
COD排出量	トン	14	9	-5
CO ₂ 排出量	千トン	474	474	0
電気使用量	GWh	611	677	66
燃料使用量	トン	13,159	13,037	-122
蒸気使用量	トン	385,073	371,392	-13,681
用水使用量	km ³	13,513	12,719	-794
廃棄物発生量	トン	52,469	49,028	-3,441
単純焼却・埋立処分量	トン	182	168	-14

環境保全経済効果

[百万円]

効果の内容		2013年度	2014年度	増減
収益	リサイクルによる有価物の売却額	465	459	-6
費用節減	原材料費の削減額	372	367	-5
	省エネルギー費用削減	107	145	38
	用水費用削減額	468	446	-22
	廃棄物処理費用削減	130	47	-83
	環境損傷対応費用の節減	0	0	0
	その他費用の節減	12	7	-5
	小計	1,090	1,013	-77
合計		1,565	1,472	-83

設備投資額と環境比率

項目	単位	2013年度	2014年度	増減
総設備投資額	百万円	33,319	22,705	-10,614
環境投資額	百万円	1,508	929	-579
環境比率	%	4	4	0

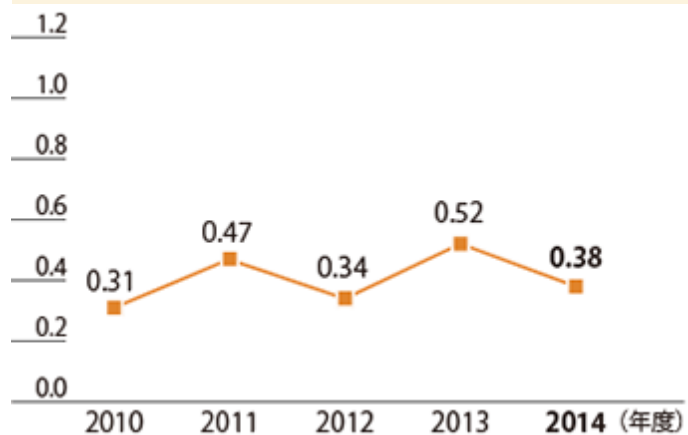
環境保全コスト対売上高比率



環境保全経済効果額対売上高比率



対環境保全コスト経済効果率

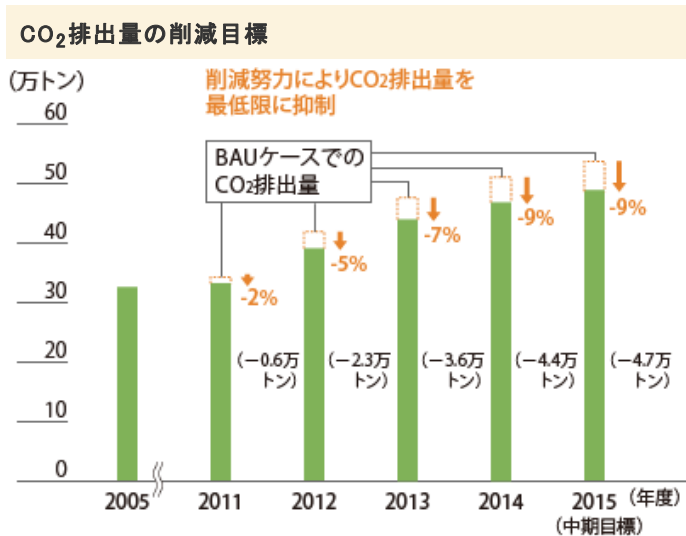


※対環境保全コスト経済効果率=環境保全経済効果額/環境保全コスト

二酸化炭素排出量の削減

三菱樹脂グループは、地球温暖化防止を目指して、CO₂排出量などの削減に取り組んでいます。高効率空調システムによる省エネルギー化や生産性向上、新エネルギーの導入などの積極的な取り組みを通じて、国内事業で2015年度までにBAUケース(対策を行わなかった場合に想定されるCO₂の排出量)比で4万7千トン削減する目標を掲げています。

2014年度は、エネルギーを多く使用している工場における可視化による省エネ改善などの製造現場での地道な活動や、生産性の向上、燃料効率の向上などに取り組んだ結果、2011年度からの累積で、BAUケース比4万4千トンのCO₂を削減することができました。



長浜工場に設置したコージェネレーション設備
エネルギー排出量の削減と緊急災害時等の自家発電が可能

TOPICS①

浅井工場に太陽光発電パネルを設置

2014年6月、浅井工場の敷地内に太陽光発電パネル1,440枚を設置し、稼働を開始しました。最大電力250kWの発電が可能で、夏季の空調負荷増加時の電力抑制に役立っています。発電電力の全量を浅井工場内で消費しており、年間の発電量実績は338MWh(一般家庭約100軒分相当)、CO₂排出量抑制は173t(サッカーコート50面分の天然林吸収量と同等)で、年間日射シミュレーションによる電力量予測を上回る結果となりました。



工場建屋の屋根上に設置した太陽光パネル

アルミ合金などの製造を受託する、三菱化学ハイテクニカ社上越テクノセンター軽金属製造部鑄造課では、原料のアルミを溶解、成分調整し、改鑄(かいちゆう)を行っています。溶解炉の燃料には天然ガスを使用しており、その燃料削減は省エネルギーの大きな課題となっていました。そこで、2014年度に省エネ改善として、各溶解炉の燃焼パターンに着目しました。燃焼パターンとは、経過時間と共に燃焼量を変化させるもので、この条件を見直したことにより、燃焼効率を大幅に向上させることに成功しました。また、これまで手動だった燃焼パターンの設定を自動化することで高効率を維持することが可能となり、改善対象炉で約8%の燃料原単位向上という、当初の想定以上の効果を得ることが出来ました。



鑄造課の溶解炉設備



工場の現場から

長浜工場では、生産設備の稼働に必要な圧縮空気を電気コンプレッサーで発生させています。その電力量は、工場全体で消費する電力の約10%を占めているため、コンプレッサーの集約やインバータ化等、消費エネルギーの削減を進めてきました。並行して圧縮空気漏れの定期的な調査を実施し、エネルギーを無駄なく使える様、保守しています。2014年度は、漏れ箇所の特定や修理の困難な埋設配管の架空化を進め、67kl相当の圧縮空気漏れを改善しました。空気自体は漏れていても、周りに害を及ぼさないため後回しにされがちですが、便利さ故の高コストなユーティリティとして、「省エネ」活動を続けています。

また、工場内の配電所に多数設置されている高圧変圧器を、生産設備の電力需要に合わせて変更したり、老朽化に伴う計画的な更新を進めており、2014年度は計6台をトップランナー基準※の変圧器に更新しました。

そのうちの4台については、さらに騒音の発生を抑えた超低騒音変圧器を採用し、騒音の法的規制はもとより、さらに厳しい社内自主規制値もクリアしました。以前の変圧器に比べ約40%の省エネ効果が見込まれ、年間 48MWh、13kl相当のロスを削減することができました。

※トップランナー基準：製造事業者等に、省エネ型の製品を製造するよう基準値を設けクリアするように課した「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」(経済産業省自然エネルギー庁)の中の、機械器具に係る措置のこと。

(出典：一般財団法人省エネルギーセンター「トップランナー基準とは」)



圧縮空気漏れ調査



更新後の変圧器

Voice

長浜工場では、圧縮空気漏れ削減活動に積極的に取り組んでいます。電気コンプレッサーから各建屋に供給している配管設備や各製造現場の定期的な空気漏れ測定、パトロールを実施しています。パトロールの際には、耳ではなかなか聞き取ることの出来ないわずかな漏れ箇所も、各種測定器を使用して早期発見に努めています。また、各製造現場に供給している圧縮空気量を可視化システムに取り込んでおり、リアルタイムで使用量を把握することで、生産工程における省エネ改善、運休時等の無駄の削減につなげています。



長浜工場
設備技術部
動力グループ
森 貴雄

環境貢献型商品

三菱樹脂グループは、「恒により高い価値を創造し、より豊かな社会づくりに貢献する」ことを企業理念に掲げ、社会の発展やより豊かな暮らしの創造に貢献するさまざまな商品の開発に鋭意取り組んでいます。そして、そのような商品を社会に提供することが、事業を通じた社会への貢献に繋がるものと考えています。そのため、私たちは、「省エネルギーに貢献している」、「サステナブルな原料を使用している」などの基準「環境貢献型商品規格」を独自に設け、この基準に適合する環境貢献型商品の製造・開発に取り組んでいます。ここでは、「環境貢献型商品」の一部をご紹介します。

食品包装用ストレッチフィルム「ダイアラップ®スーパー」

食品包装用ストレッチフィルム「ダイアラップ®スーパー」は、燃やしても塩素系ガスを排出しない、ポリオレフィン系の素材を使用しています。一般的な塩化ビニル製のラップに比べて厚みが薄く、比重も小さいため、商品重量を約20%削減し(当社品比)、省資源化や廃棄物の削減に貢献しています。

▶ [ダイアラップ®スーパーの製品ページ](#)



農業用フィルム

三菱樹脂のグループ会社である三菱樹脂アグリドリーム社は、農業用フィルムリサイクル促進協会の一員として、農業用ビニルフィルムのリサイクルの推進に努めています。農業用ビニルフィルムは、ほぼ同じ材料でつくられているため、回収後にマテリアルリサイクルしやすく、リサイクル率は約71%となっています。

▶ [三菱樹脂アグリドリーム社](#)



アルミ樹脂複合板「アルポリック®」

2004年6月の環境大臣の認定（広域認定制度）に基づき、全国からアルミ樹脂複合板「アルポリック®」の廃材回収を行い再資源化を進めています。回収された廃材は、金属面材と樹脂芯材とに分離し、金属面材は再溶解、圧延して「アルポリック®」用面材として再利用します。樹脂芯材は粉碎して芯材原料として再利用します。

▶ [アルポリック®の製品ページ](#)



※環境貢献型商品（環境貢献型商品と環境配慮型商品について）

●環境貢献型商品

2011年に設定した新たな基準に合致する、環境へ貢献することができる商品群。

従来の環境配慮型商品の基準を踏まえ、自然エネルギー活用機器部材も対象としている。

No.	項 目	基 準
1	再生材料の使用	再生材料を30%以上使用
2	省資源	従来品に比べ、30%以上の省資源化を達成
3	回収エネルギー	従来品に比べ、30%以上の回収エネルギー利用を達成
4	廃棄物削減	従来品に比べ、30%以上の廃棄物削減化を達成
5	省エネルギー	従来品に比べ、30%以上の省エネルギー化を達成
6	省水資源	従来品に比べ、30%以上の省水資源化を達成
7	長期使用可能	従来品に比べて、1.5倍以上の長期使用が可能
8	再利用／再使用	2回以上の繰り返し使用、または詰め替えができ回収・再使用が可能
9	リサイクル可能	複合材を50%以上含まず、リサイクルが可能
10	処理処分容易	廃棄時の処理が容易
11	植物由来原料使用	バイオマスプラスチック度:25%以上
12	生分解性／光分解性	物質が分解して環境に同化する材料
13	コンポスト可能	容易にコンポストとなり自然に同化する材料
14	エコマーク認定品	エコマーク認定品
15	エコ商品ネット掲載品	エコ商品ネット掲載品
16	業界・協会認証品	業界・協会認証品

●環境配慮型商品

三菱樹脂が、2002年に設定した基準に合致する環境に配慮した商品群。広義の「環境貢献型商品」に含まれる。

No.	項 目	基 準
1	環境汚染物質の削減	指定物質を意図的に配合処方していないこと
2	省資源	従来品に比べ、30%以上の省資源化を達成
	省エネルギー	従来品に比べ、30%以上の省エネルギー化を達成
3	植物由来プラスチック原料使用	バイオマスプラスチック度:25%以上
4	長期使用可能	従来品に比べて、1.5倍以上の長期使用が可能
5	再使用可能	2回以上の繰り返し使用、または詰め替えができ、回収・再使用が可能
6	リサイクル可能	複合材を50%以上含まず、リサイクルが可能
7	再生材料の使用	再生材料を30%以上使用
8	処理処分の容易性	廃棄時の処理が容易

従業員とともに

安全衛生活動



「休業度数率ゼロ」の達成をめざし、安全衛生活動を強化しています。

人権啓発



人権啓発活動に関する基本理念のもと、従業員一人ひとりが、互いの人権を尊重し、明るく働きがいのある職場づくりを推進しています。

ワークライフ・バランス



従業員一人ひとりの個性を尊重した、誰もが安心して働ける職場づくりに努めています。

人材育成



採用から育成まで一貫した仕組みを構築し、自ら考え自ら行動する人材の育成と全員参加型企業風土の醸成を図っています。

安全衛生活動

- ▼ ハード面対策の取り組み
- ▼ ソフト面対策の取り組み
- ▼ ヒューマン面対策の取り組み

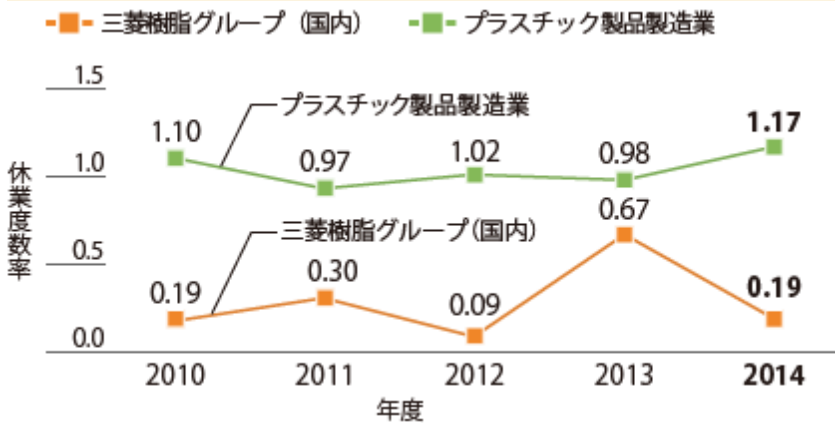
「休業度数率ゼロ」の達成をめざし、安全衛生活動を強化

三菱樹脂グループは、工場内常駐の協力会社も含めて、全社一体となった安全衛生活動を展開しています。2012年度までは順調に休業度数率※を低減させてきましたが、2013年度は、一転、ロール・動くものへの手出しによる重大災害が頻発し(休業4件、不休業1件)、三菱樹脂グループ史上最も悪い労働災害実績(休業7件、不休業5件、休業度数率0.67)となりました。

この事態を重く受け止め、2014年度は重大災害防止対策を中心にハード面、ソフト面、ヒューマン面の活動を強化した結果、休業2件、不休業1件まで減少し、軽微災害を含めた総件数も24件から12件へと半減させることができ、新記録を達成しました。

※ 休業度数率: 100万労働時間あたりに発生する休業以上の受傷者数を表す災害発生率

休業度数率推移



(出典: 厚生労働省「平成26年労働災害動向調査(事業所調査(事業所規模100人以上)及び総合工事業調査)結果の概況」)

エンジニアリングプラスチック製品やコンポジット製品の製造・販売を行うクオドラントグループは、2009年に三菱樹脂と事業提携を行いました。その直後、当社CEOより、当社グループの安全成績は、三菱樹脂グループから大きく遅れていると指摘を受けました。ただちに、クオドラントグループ全従業員を対象とした安全対策制度の策定が求められるとともに、各組織の責任者にとって、安全報告は最優先事項になりました。

クオドラントグループは、アジア太平洋および欧州、北米地区に計30以上の事業所があり、4つの事業部門に分かれています。従来、事業部門ごとの安全対策プログラムは存在したものの、グループ内で統一されていなかったため、新安全パトロール監査制度や個人用保護具などの三菱樹脂の安全ツールを採用した、新たな安全対策のプラットフォームが導入されることになりました。

私は、グローバル安全衛生環境マネージャーとして、三菱樹脂の安全対策プログラムや管理・運用・報告方法について理解を深めるため、三菱樹脂本社を訪れました。当社との安全対策の差異を洗い出し、新しい安全対策を練り、特に安全の意味と定義、報告とフォローアップについて大きな差異を埋めることができました。こうしてすべての懸案事項を解消した新安全対策は、全事業部門および事業所に配布されました。



新安全パトロール



新安全パトロール結果説明の様子

2014年度、当社グループは安全強化策として、新たに三菱樹脂の2つの制度を導入しました。一つは、2014年11月より、日本、韓国、香港において本格的に開始した、新安全パトロール監査制度です。私は三菱樹脂の担当者と共に当社の各事業所を訪問し、初めての監査を実施しました。全事業所において、挟まれ・巻き込まれ、転落、不十分な安全カバーなどを中心に多くの危険項目が発見されました。各事業所では、指摘を受けた危険項目を解決すべく改善計画に取り組んでおり、毎月世界各地から改善策の報告が挙がってきています。欧州および北米地区に18か所ある製造拠点においては2015年末までに、欧州のその他の全拠点には2016年中に、同制度の導入完了を予定しており、三菱樹脂のサポートのもと、当社グループの全部署・全設備の監査を実施していきます。

もう一つは、安全行動教育プログラムの導入です。三菱樹脂の欧州・北米のグループ各社で行われている同プログラムでは、従業員に対して、個人向け・チーム向けの安全行動教育を義務付けており、油断、慌ててしまうこと、ストレスなどの課題に焦点をあて、そのような危険な行動が労働災害を引き起こす可能性があることを学びます。当社グループで発生した労働災害は、すべて機器の不具合ではなく従業員の不安全な行動に起因するものです。より安全な職場環境を実現するためには、全従業員が本プログラムを通じて新しい技術を習得することが不可欠です。

事故ゼロに向け積極的に取り組んだ結果、当社グループの労働災害件数は減少し、安全指標は向上し続けています。私たちは、いつまでも三菱樹脂グループから大きく遅れた状況にあることに甘んじるつもりはありません。クオドラントグループが今後どのような成果を出していくか、楽しみにしててください。



Steve Pendlebury
Global Manager, Safety,
Health & Environment,
Quadrant group

ハード面対策の取り組み

三菱樹脂グループでは、ハード(設備)面の対策の根幹として「設備安全設計要領」を制定し、この要領に則った「新安全パトロール※1」「新設および改造設備安全診断」の仕組みを運用することによって安全化を進めています。2011年度からは活動を深耕するため、新安全パトロールの対象を非定常作業(例:スタート作業、トラブル処理作業)に拡大し、さらに2014年度からは、日頃作業者が行いにくい作業も含めて部署長が作業者に確認を行うことにより、パトロール時に発見しにくい不安全箇所や不安全作業の抽出を進めました。その結果、2014年度には三菱樹脂グループ全体で2,483件の新たな指摘を行い、2,835件(前年度指摘件数含む)について改善を完了し、設備の安全化を進めることが出来ました。

また、2013年度から本格的に展開しているロール管理表※2を利用した改善も推進中です。あわせて、活動の根幹となる「設備安全設計要領」については、定期的に見直し・改訂を行ったうえで、設計部門、製造部門を中心に教育を実施し周知・浸透を図りました。2015年度以降もこれらハード面対策の活動を継続し、さらに浸透・定着させていきます。

※1 新安全パトロール: 既存設備についてあらゆる危険源を抽出し改善を進める活動。海外製造拠点にも展開。

※2 ロール管理表: ロールを1本毎にリスク評価し点数化することにより不安全箇所を明確にして改善に繋げる仕組み。



上田工場 新安全パトロール実施風景

ソフト面対策の取り組み

三菱樹脂グループでは、ソフト面の対策として、「現場管理基準7点セット(G7)活動」を進めています。「現場管理基準7点セット(G7)活動」とは、自分たちが「より安全に」「より快適に」「より効率的に」「より確実に」作業ができるように自分たちでルールを決めて運用していく自主管理活動です。具体的には、下記の7つの管理基準を中心に自分たちの職場に必要な管理基準を整え、運用・維持管理することにより、「ルールを守る」ことを習慣化していきます。さらに、2014年度は、各職場での活動サポート役となる部署長を対象とした教育資料を整備し、活動の底上げを図りました。例えば、長浜工場設備技術部保全グループでは、作業場において、自分たちで位置決め等の様々な管理基準を定め、自分たちで作業場を維持管理しています。その結果、同時に複数の作業を複数の作業者が作業場所を共有しながら「安全に」「快適に」「効率的に」「確実に」作業を進めることが出来、完全ゼロ災害を継続することが出来ています。

2015年度も定期的にも実績を把握しながら、活動の浸透・定着を進めています。



長浜工場 設備技術部保全グループのG7活動事例

現場管理基準7点セット(G7)活動の管理基準

- | | |
|--------------|-----------------|
| ① 置き場所表示管理基準 | ⑤ 棚番表示管理基準 |
| ② 仮置き管理基準 | ⑥ スネークホース管理基準 |
| ③ 仮使用管理基準 | ⑦ インターロック表示管理基準 |
| ④ 不要物置き場管理基準 | |

ヒューマン面対策の取り組み

ヒューマン面の対策については、各グループ会社・製造拠点の歴史・風土を考慮して進める必要があることから、従来は各グループ会社・製造拠点での活動が主になっていましたが、2011年度から三菱樹脂グループ全体の仕組みとして「個人安全レベルチェック※3」を開始し、2014年度は三菱樹脂グループ全体で4,660名が参加しました。さらに、過去3年間、夏場(5月～9月)に重大災害が連続して発生していることへの対策として2014年度は新たに「夏季安全運動強調期間※4」を三菱樹脂グループ全体の安全意識啓発活動として展開しました。その結果、当該期間のみならず期間終了後も効果が継続し、労働災害件数を大幅に削減できました。

※3 個人安全レベルチェック:安全衛生に関する「知識・技能」「意識」「行動」に関する合計48の設問に対して現場第一線の作業員から管理者まで一人ひとりが自己評価し、職場・製造拠点・全社レベルで集計することによって、強み・弱みを把握し各々の活動に役立て、向上していこうとする仕組み。

※4 夏季安全運動強調期間:所管役員メッセージおよびポスター(挿絵は従業員から公募)を現場に掲示し、日々、各社・製造拠点の一人ひとりの意識にとどめることにより安全行動につなげる活動。

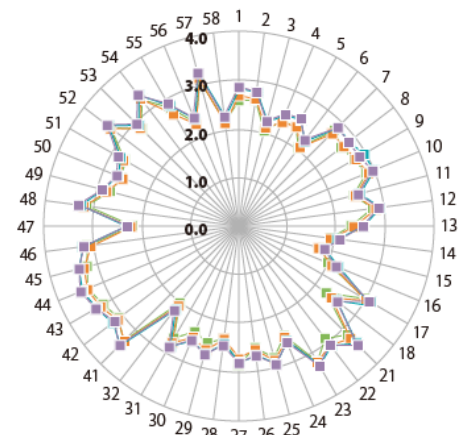
労働災害件数推移

年度	休業	不休業	軽微	総計
2013年度	7件	5件	12件	24件
2014年度	2件	1件	9件	12件

2015年度も、各グループ会社・製造拠点の活動をベースに、グループ全体の活動も組み合わせながらヒューマン面対策を強化していきます。

個人安全レベルチェック (三菱樹脂グループ集計結果)

— 2011年度 — 2012年度 — 2013年度 — 2014年度



2011年度:回答者数 4,762 総平均 2.64 (66.0/100点)
 2012年度:回答者数 4,631 総平均 2.69 (67.1/100点)
 2013年度:回答者数 4,598 総平均 2.79 (69.8/100点)
 2014年度:回答者数 4,660 総平均 2.81 (70.4/100点)

夏季安全運動強調期間 メッセージ・ポスター





安全管理の現場から

私たちは、新安全パトロール等のハード面、現場管理基準7点セット活動(G7)等のソフト面、安全則唱和等のヒューマン面の独自活動の展開により、労働災害削減に取り組んでいます。これからも、安全・安心・安定したモノ造りのために、現場力向上とKAITEKI実現に繋がる安全活動を推進していきたいと考えています。



環境安全部
安全グループ
グループマネージャー
谷口 一男

人権啓発

明るい働きがいのある職場づくりを推進

三菱樹脂グループは、人権啓発活動に関する基本理念のもと、三菱樹脂グループの従業員一人ひとりが、互いの人権、人格を尊重し、人種、性別、宗教などによる差別のない職場づくりに努めています。

基本理念

三菱樹脂グループは、以下の基本理念を定め人権啓発活動に努めています。

すべての人間は生まれながらにして自由であり、人間としての尊厳と平等なる権利を有している。三菱樹脂グループの構成員は、人種、性別、宗教など、事由の如何を問わず、不当な差別を一切行うことがあってはならない。私達は、「相互信頼」のもとにお互いの多様な個性・価値観を尊重し、差別のない明るい働きがいのある職場づくりを推進していく。

障がい者雇用の推進

2014年度より、長浜工場内に太陽光利用型植物工場を建設し、地域の障がい者の雇用を進めています。太陽光利用型植物工場とは、まず人工光を用いた完全閉鎖型の苗生産システム「苗テラス[®]」で苗を育て、その苗を農業ハウスに移し、葉菜類用養液栽培システム「ナッパランド[®]」で野菜を栽培するシステムです。比較的容易に、計画的かつ安定的に栽培することができるというシステムの特徴を活かすことで、地域の障がい者の方々に働く場を提供しています。

▶ [太陽光利用型植物工場の製品ページ](#)



長浜工場内の太陽光利用型植物工場

仕事と競技の両立で自分の可能性に挑戦

2011年4月に入社し、人事部で主に海外出張に関わる伝票発券業務や各種の資料作成業務を行っています。重度の視覚障がいがあり、文字の読み書きが困難ですが、スキャナーや音声読み上げソフトなどの支援機器を活用したり、周囲の方々のサポートを頂きながら、業務を行っています。現在では障がい者雇用関係業務にも携わっており、2015年に初の試みとして行った新入社員向けの「障がい者理解研修」を企画・実施しました。企画にあたり、障がい者職業生活相談員の認定講習会を受講したり、障がいのある従業員の方々に対し、現在の業務や悩み、会社への要望などのヒアリングを行いました。自身の立場を活かし、現在勤務している方やこれから入社してくる方に対して、働きやすい職場環境を提供できるよう、今後は管理職向けにも研修を企画・実施し、貢献していきたいと考えています。

一方、ワークライフバランスという点では、水泳でリフレッシュしつつパラリンピックを目指しており、国内外の大会にも出場しています。2014年秋に開催されたアジアパラリンピックでは、50m自由形で銅メダルを獲得することができました。仕事と競技生活の両立は大変難しいですが、公私共に、障がいがあっても自分の可能性に挑戦し続けていきたいと思えます。



人事部 人事グループ
石浦 智美

人権啓発に関する研修の実施

三菱樹脂グループでは、グループ各社の集合研修や支社・工場での部長会議などで人権研修を実施しています。2014年度は、延べ54回、1,643名が受講しました。また、三菱グループ各社で組織される「三菱人権啓発連絡会」や「滋賀人権啓発企業連絡会」などに加盟し、人権全般にわたる情報収集や、同連絡会を通じた人権担当者の育成など、社外の方とも意見を交わしています。

なお、ハラスメントに関する方針を「コンプライアンスガイドライン」に定めるとともに、2012年度には「ハラスメント防止ガイドライン」を発行しました。従業員一人ひとりの理解の促進を図り、働き甲斐のある快適な職場環境の実現を目指しています。



人権啓発に関する研修

ワークライフ・バランス

働きやすい職場づくりに努めています

三菱樹脂では、ワークライフ・バランスに配慮した社内制度の整備を通じて、従業員一人ひとりの個性を尊重した、誰もが安心して働ける職場環境づくりに努めています。

- ▼ 公平な雇用機会の提供
- ▼ 各種休暇制度
- ▼ ダイバーシティ推進
- ▼ 長時間労働による健康障がいの防止
- ▼ 労使関係
- ▼ 福利厚生 の充実
- ▼ 産業保健スタッフによる取り組み

公平な雇用機会の提供

三菱樹脂では、障がいを持った方や女性総合職の採用に積極的に取り組み、多様な従業員が働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。

女性総合職社員数



各種休暇制度

三菱樹脂では、従業員があらゆるライフステージで安心して仕事に取り組むことができ、かつその能力を十分に発揮できるよう、出産・育児休業や介護休業、ボランティア休暇、リフレッシュ休暇など、休暇制度の適正な整備・周知を通じて、従業員のワークライフ・バランスの実現をサポートしています。

各休暇制度の取得状況

年度	産前産後休暇	育児休業	介護休業
2010年度	14名	13名	0名
2011年度	17名	12名	0名
2012年度	16名	15名	0名
2013年度	12名	12名	1名
2014年度	10名	12名	0名

ダイバーシティ推進

2014年度より経営方針の一環として、ダイバーシティの推進に、より積極的に取り組んでいます。推進にあたり、性別、年齢、ハンディキャップ、国籍を超えるという4つの重点課題を設定しており、その第一ステップとして「女性の活躍推進」に焦点をあて、全社での活動を展開しています。具体的には、働き方の見直しやキャリア意識の向上など、様々な取り組みや諸施策を立案、実施しています。加えて、2014年7月末には、女性従業員をメンバーとした「ダイバーシティ推進女性委員会」を設置し、従業員自らがやりたい姿、あるべき施策などを考え、働きやすい環境づくりの実現に向けて取り組んでいます。

Voice

女性の活躍推進を目指して

「ダイバーシティ推進女性委員会」のメンバーとして、女性の活躍推進という視点から、働きやすい環境の実現に向けて、現状分析や実質的なニーズの掘り起こしを行い、2015年6月に実施した経営提言に向け、一年間推進活動に取り組みました。議論を重ねる中で、「女性の活躍推進」のためには次の2点が重要であると感じました。1つ目は、経営幹部、管理職、女性従業員自身のそれぞれの意識改革が欠かせないこと、2つ目は、意欲のある女性従業員のキャリア形成プランと仕事を通じた人材育成の仕組みの構築が不可欠であるということです。プロジェクト推進にあたって、多様な価値観を持つメンバーとの議論など、苦労も多かったものの、乗り越えた先に新たなアイデアを盛り込んだ、継続性のある提言ができると信じ、メンバー一同力を合わせました。私たちの提言が、今後のダイバーシティ推進活動にどう反映され、会社の風土が変わっていくのか、楽しみです。



総合研究所
コーポレート
研究センター
応用技術研究室
銭丹娜

長時間労働による健康障がいの防止

三菱樹脂では、労働組合との協議・手続きを経て、従業員の労務管理を行っています。また、基準を超えて時間外労働を行った従業員には、産業医との面談を義務付けており、過重労働による健康障がいの未然防止に努めています。

従業員データ

従業員の人数	2,674名
平均勤続年数	18.1年
定年後再雇用の人数	128名
平均の時間外労働時間	16.2時間/月

労使関係

三菱樹脂では、従業員組合として三菱樹脂労働組合が組織されています。常日頃から、労使の対話を通じて相互の情報交換を行うとともに、年2回開催する経営協議会では、経営の現状や課題を共有し、労使が進むべきベクトルをあわせています。

三菱樹脂労働組合の構成

年度	組合員数	平均年齢	勤続年数
2010年度	1,862名	36.1歳	13.7年
2011年度	1,860名	36.7歳	14.3年
2012年度	1,887名	36.5歳	14.7年
2013年度	1,859名	37.2歳	15.1年
2014年度	1,889名	38.2歳	16.0年

福利厚生の実現

三菱樹脂では、従業員が安心して継続的に働けるよう、企業年金制度、寮・社宅制度、住宅購入時の融資制度など、各種福利厚生の実現に努めています。

産業保健スタッフによる取り組み

三菱樹脂では、産業医・保健師などが中心となり、従業員への健康支援サポートを実施しています。

心の健康面では、階層別研修にセルフケア、ラインケアを導入しています。また、定期的に従業員向けメンタルヘルス研修やストレス調査を実施し、従業員の健康状態の向上につとめています。長時間労働に伴う健診(面談)については社内基準を設け、従業員が確実に健診を受診できるようにしています。傷病による休業後の職場復帰についても、休業開始時からケアを実施したり、職場復帰プログラムを作成するなど、職場と人事部門が一丸になって職場復帰を支援しています。

身体の健康面では、健康診断・事後措置の徹底を進めています。健康増進策として、全社ウォーキングをはじめ、栄養バランスのとれた弁当をとりながら、生活習慣を解説する健康教室も実施しています。

私たち産業保健スタッフは、三菱樹脂で働く全従業員がKAITEKIに働ける環境の形成と、「従業員が健康を最高の状態に育む」ことを目指しています。



産業保健スタッフ



人事の現場から

菱琵テクノ社は、三菱樹脂の生産を担う会社です。ワークライフ・バランス推進企業として、すべての従業員が仕事と子育てを両立し、働きがいをもって継続勤務できるような雇用環境を整備しています。子どもの看護休暇の取得率向上措置の実施や、男性1名以上、女性で70%の育児休暇の取得などの達成により、2009年には滋賀労働局より仕事・子育ての両立企業に認定されました。



中小企業として、
滋賀県初の認定



認定証を受け取る菱琵テクノ社の
柴田部長(当時)(京都新聞社ご提供)

人材育成

人を育て、事業を育てる ～個性を伸ばす能力開発～

三菱樹脂では、人材育成をグループの成長を支える重要な基盤であると位置づけています。採用から育成まで一貫した仕組みを構築するなかで、将来に向けてのさまざまな場面において、自ら考え自ら行動する人材の育成と全員参加型の企業風土の醸成を図っています。

- ▼ 人材育成の基本方針
- ▼ 階層別研修
- ▼ 新入社員研修
- ▼ 技術研修
- ▼ グループ社員研修
- ▼ グローバル研修
- ▼ タヤけ講演会の開催
- ▼ 通信講座
- ▼ 研修施設の整備・充実

人材育成の基本方針

企業の成長の源泉は人であるとの観点から、一人ひとりの個性や人格を尊重し、さまざまな機会を通じて人材を育てていきたいと考えています。また、企業理念・ビジョンの共有から組織風土の醸成まで、体系的な研修プログラムを提供することで、従業員それぞれが持っている力を十分に発揮し、グループの成長に結びつくよう取り組んでいます。

人材育成の概念図



階層別研修

三菱樹脂では、主に総合職社員を対象に、入社後10年間を重点期間とした階層別研修を実施しています。7つのステップに分けられたこの研修を通し、質の高い業務に取り組むうえで必要な知識、スキル等を体系的に学習するとともに、企業理念・ビジョンやチームワークの醸成を図っています。また、この研修は、従業員が自ら成長したいという気付きを得る機会となるだけでなく、経営幹部が講師を務める際、自らの言葉で、自らの考えを伝えることで、思いを共有する場にもなっています。



階層別研修

新入社員研修

三菱樹脂では、新入社員が職場へ配属される前に、社会人としての基礎を習得するため、入社直後の4月から約1.5ヶ月間と7月の本採用時の2回にわたり、新入社員研修を実施しています。敬語の使い方や電話のかけ方、社内・社外の文書の書き方など、社会人の基本を学ぶビジネス実践研修や、製造現場の業務を通しメーカー人としての素養を身につける交替実習、計画を立て実行し、事実をもとに物事を考えることの重要性を実感して学ぶウォークラリー研修など、自ら考え体感する研修を中心に実施しています。また、上記以外にも、三菱樹脂の事業を理解するための研修やマーケティング研修など、各研修を通じOJTに入る前の準備期間を設けています。



新入社員研修(事業部研究発表)

技術研修

三菱樹脂グループでは、従来よりモノ造り力向上と技術伝承の場として技術研修を行ってきましたが、研修内容のさらなる充実を図り、2013年度にカリキュラムを刷新しました。新たにスタートした研修は、社内講師を起用した当社独自のスタイルにより、モノ造りの企業であればこそ可能となる技術伝承の場として有益な内容となっています。三菱樹脂グループで働く技術系社員として必要な知識を広く学ぶ基礎コース、基礎コースの内容を更に掘り下げ応用編とした専門コース、課長やリーダー向けにマネージャーとして必要な知識や経験の伝授を目的としたマネジメントコースの3つのコースに分かれており、2014年度はのべ599名の従業員が受講しました。



技術研修(マネジメントコース)

グループ社員研修

三菱樹脂グループでは、2013年度よりグループ社員研修会をスタートしました。三菱樹脂グループに所属する管理職社員を対象に、様々な会社から職種の違う社員が集い、計4回の研修に取り組んでおり、2014年度は17社、27名が参加しました。本研修は、問題解決の手法やマーケティング、コミュニケーションなど、ビジネスを行う上でのヒントが学べる内容になっています。研修を重ねるにしたがって受講者のネットワークも広がっていき、絆も強まりました。今後もグループ経営の考え方にに基づき、継続して実施していきます。



グループ社員研修(ウォークラリー研修/チーム発表)

グローバル研修

日本と東アジア地区の現地スタッフが一堂に会し、相互の国を訪問してビジネススタイルや文化を議論し、認識を共有することでグローバルビジネスの基礎を学ぶ、シャトル・ラーニング・プログラム(SLP)研修を実施しています。2014年度は、三菱ケミカルホールディングス(MCHC)のグループ会社と合同で開催し、海外の事業所訪問や国内外の参加メンバー同士の交流等を通じ、MCHCグループのグローバル化を実感できる研修となりました。



SLP研修(海外工場見学/チームディスカッション)

夕やけ講演会の開催

三菱樹脂グループでは、2010年度より社内外から講師を招いて、グループ社員であれば誰でも参加できる社内講演会「夕やけ講演会」を年に数回開催しており、2014年度までに21回、のべ1,300名が参加しました。テーマは、身近なトピックスからビジネスに役立つものまで多種多様で、講演は夕方からスタートし、終了後には講師を交えた軽食懇談会も開催しています。職場を超えた従業員のコミュニケーションの場として、普段の業務では得られないネットワークを広げる機会となっています。



夕やけ講演会

通信講座

三菱樹脂グループでは、自己啓発支援の一つとして、年2回(4月・10月)、通信講座を開講しています。200を超える様々な講座がありますが、学習ニーズに応えるため毎年講座の入れ替えを行っています。受講期間内に修了すると会社から受講料の一部を奨励金として受けられる制度を利用し、毎年多くの社員が受講しています。中でも語学関係の受講者は多く、社内で開催しているTOEIC試験や語学講座なども利用して語学力の向上に取り組んでいます。



通信講座のガイドブック

研修施設の整備・充実

三菱樹脂では、階層別研修や技術研修など多くの研修を開催していますが、神奈川県の研究施設に加え、滋賀県にも研修施設『長浜CSセンター「大志館」』を新たに建設し、2010年から本格的に運用を開始しています。国内東西の拠点を積極的に活用し、個性を伸ばす人材育成に取り組んでいます。



左上: CSセンター(神奈川県平塚市)

右下: 長浜CSセンター「大志館」(滋賀県長浜市)



人材育成の現場から

人材開発部では、採用から育成までを一貫して担当しています。採用における会社説明会や工場見学、階層別研修や技術研修など様々な研修の場面において、多くの従業員が登場し、経験や知見、思いを伝えています。また、研修は、職場が異なる参加者同士がコミュニケーションや議論を交わす場を多く設けることで、異なる視点や考えに触れ、新たな気づきに繋がる機会になるとともに、ネットワークを広げる機会にもなっています。こうした取り組みを通じ、会社全体が従業員の成長を支えると共に、従業員同士が活発に議論を交わす、より良き社内風土の醸成にも努めています。



人材開発部
グループマネージャー
荒川 直樹

コンフォート・Plus商品

三菱樹脂グループは、三菱ケミカルホールディングス(MCHC)グループが提唱するKAITEKIというコンセプトに基づき、企業活動をしています。KAITEKIとは、人にとっての心地よさに加え、社会にとっての快適、地球にとっての快適を併せ持ったもので、真に持続可能な状態を意味します。MCHCグループでは、このKAITEKIの実現に向けて、従来の経営指標に加えて、新たな指標として、MOS(Management of Sustainability)指標を導入し、その取り組みを始めています。

このMCHCグループのMOS指標において、三菱樹脂グループは、「より快適な生活のための製品の開発・生産」というComfort指標に関して、特に貢献度が高い製品を「コンフォート・Plus商品」として独自に定め、64製品を選定しています。2015年度にはこれらの製品の売上高を2010年度比で約2倍とし、800億円以上増やすことをめざしています。2014年度には、2010年度比で約342億円増加しました。

「コンフォート・Plus 商品」の選定基準(以下、1~3の全てを満たすもの)

1. 次のキーワードのどれか(又は複数)を満たす商品

6つのキーワード:「お客様にとっての利便性」、「耐久性」、「機能効率」、「多様性」、「表現力や五感」、「清潔性の向上」

2. プラスαの価値や三菱樹脂らしさを提供する商品

キーワード例:トップシェア、三菱樹脂の独自技術、植物由来など

3. 将来への変化を示す商品

各事業部・部のポートフォリオの中で成長、創造に位置づけられる商品

※「KAITEKI」、「MOS」の詳細は、[MCHCのKAITEKI経営](#)をご参照下さい。

環境に配慮したクルマづくりに貢献 結晶質アルミナ繊維「マフテック®」

優れた耐熱性で、自動車の排ガス浄化装置の触媒担体やフィルターを保護

アルミナとシリカを化合して作られるアルミナ繊維は、耐熱性に優れ、超高温下でも安定した機能を発揮します。昨今、新興国を含め世界各国で自動車や建機の排ガス規制が強化される中、排ガス処理装置の高機能化が進んでいます。世界トップシェアの「マフテック®」は、排ガス処理装置の触媒担体やフィルターをサポートするクッション材として使用され、エンジンから出る熱や走行中の振動、衝撃から保護し、自動車のクリーンな排気を支えます。

▶ マフテック®の製品ページ

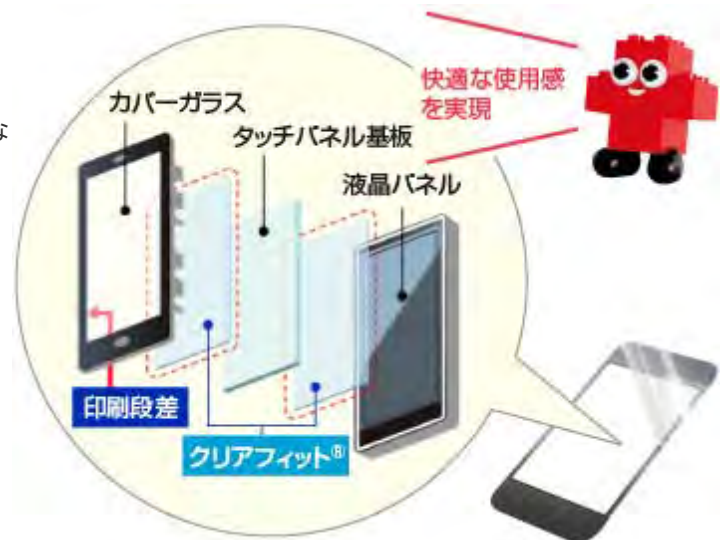


美しい液晶ディスプレイに貢献 光学用透明粘着シート「クリアフィット®」

スマートフォンやタブレットPCをより快適に

タッチパネル型液晶ディスプレイのカバーガラスやタッチパネル基盤、液晶パネルの層間に「クリアフィット®」を充填し、空隙を埋めることによって、太陽光の乱反射を抑えることができます。その結果、ディスプレイの視認性が大幅に向上し、スマートフォンやタブレットPCの快適な使用感を実現します。

▶ クリアフィット®の製品ページ



野菜の安定供給を支援

人工光を利用して苗を生産するシステム「苗テラス[®]」と、環境を制御した農業ハウスで栽培する太陽光利用型植物工場を組み合わせたシステムは、定時、定量、定品質、定価格で、野菜を消費者に提供します。この新しいビジネスモデルは、農家の経営を安定させることができ、競争力がある強い農業の確立を支援するものです。若者や異業種の農業への参入を促し、農業の担い手不足の問題解決にも貢献することが期待されています。

- ▶ [太陽光利用型植物工場の製品ページ](#)



非枯渇性資源の有効利用

トウモロコシなどの植物資源からつくられるバイオマスプラスチックです。三菱樹脂は、優れた加工技術を活かして、植物由来樹脂をフィルム、シートなどの多様な商品に加工しています。二酸化炭素の排出を抑制し、限りある化石資源を節約する、環境に配慮した商品として期待されています。

- ▶ [エコロジー[®]の製品ページ](#)
- ▶ [PLABIO[®]の製品ページ](#)



コンフォート・Plus商品一覧

<p>高機能フィルム関連分野</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 共押出多層フィルム「ダイアミロン[®]M・MF」 ● ポリ乳酸系ラベル用シュリンクフィルム「PLABIO[®]」 ● ハイバリアPETボトル ● 把手付ボトル ● 食品包装用ポリオレフィン系ストレッチフィルム「ダイアラップ[®]スーパー」 ● 植物系フィルム・シート「エコロジー[®]」 ● 光学用透明粘着シート「クリアフィット[®]」 ● 透湿性フィルム「KTF[®]」 ● 錠剤・カプセル包装用防湿シート「ビニホイル[®]」 ● ポリオレフィン系樹脂柔軟性フィルム「アートプライ[®](太陽電池用)」 ● 二軸延伸ポリエステルフィルム「ダイアホイル[®](太陽電池用、タッチパネル用など)」 ● ノントレー包装用フィルム「ナイトレー[®]」※1 ● イージーオープン用シーラントフィルム「イージーピールフィルム」 ● 透明シリカ蒸着ハイガスバリアフィルム「テックバリア[®]」
<p>環境・生活資材関連分野</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 住宅用温水式高効率床暖房マット ● 給水給湯システム配管 ● FRP製水槽「ヒシタンク[®]」 ● 土壌侵食防止ブロックマット「ゴビマット[®]」 ● 盛土補強ジオグリット「テンサー[®]」※2 ● SGB・RGB工法 ● CFRPプレート「eプレート」 ● フレキシブルコンテナ「ダイヤテナー[®]EC(導電)」 ● ポリカーボネートプレート「ステラ[®]」 ● 透湿防水シート「アウトール[®](建材用)」 ● 防湿気密フィルム「インバリア[®](建材用)」 ● 生分解マルチフィルム「カエルーチ[®](農業用)」※3 ● 太陽光利用型植物工場「トマトリーナ[®]」「ナツパーランド[®]」「苗テラス[®]」※3 ● 機能フィルム「メガクール[®](農業用)」※3 ● 農業ハウス用・耐久農POフィルム「ダイヤスター[®]」 ● 灌水資材「エバフロー[®]」※3 ● 人工芝「アストロターフ[®]」 ● 養生用粘着テープ「パイオラン[®]Y09-GR」※4 ● 遮光・遮熱農業資材「ふあふあ[®]」※4
<p>高機能成形材・部品関連分野</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 内外装用アルミ樹脂複合板「アルポリック[®]/fr」「アルポリック[®]A2」「アルポリック[®]Gioa[®]」 ● 樹脂フィルム積層鋼板「ヒシメタルEX-DR[®]」 ● アルミ押出材、高純度アルミ、高熱伝導材、KN材 ● 石炭ピッチ系炭素繊維「ダイアリード[®]」※5 ● 結晶質アルミナ繊維「マフテック[®]」 ● 省スペースタイプコンテナ ● フィルタープレス機用PP製圧搾濾板「フィルタープレート」 ● 医療用特殊材料「MediTECH[™]」 ● ガラスマット強化熱可塑性樹脂複合シート「GMT」 ● ガラスマット強化熱可塑性樹脂複合シートの軽量化版「LWRT」 ● 医科歯科用容器

新規事業関連分野

- ゼオライト系水蒸気吸着材「AQSOA[®]」
- 高性能コンポジット
- リチウムイオン二次電池用セパレーター「セパレント[®]」
- 超ハイガスバリアフィルム「X-BARRIER[®]」
- 薬用植物

※ 新規事業関連分野に該当する全商品(上記の5製品以外も含む)が対象となります。
※ 組織名は2015年3月末時点の名称です。

※ 記載を省略している製品もあります。

※1 「ナイトレー」は、ジェイフィルム(株)の登録商標です。

※2 「テンサー」は、テンサー テクノロジーズ リミテッドの登録商標です。

※3 「カエルーチ」、「トマトリーナ」、「ナツパーランド」、「苗テラス」、「メガクール」、「エバフロー」は、三菱樹脂アグリドリーム(株)の登録商標です。

※4 「パイオラン」「ふあふあ」は、ダイヤテックス(株)の登録商標です。

※5 2015年4月より三菱レイヨン社に移管